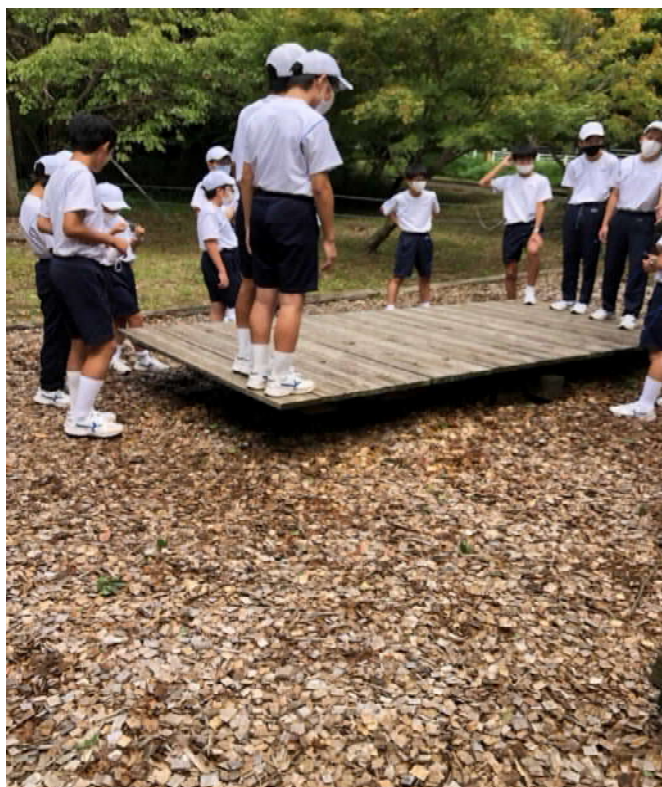


令和4年度 所 報

～事業の成果と記録～



国立諫早青少年自然の家HP

独立行政法人国立青少年教育機構
国立諫早青少年自然の家



目 次

I 事業実績一覧

- 1 ハイパーレスキューチームスタートアップキャンプ
- 2 地域探究オリエンテーション合宿【学校型】
- 3 地域探究オリエンテーション合宿【個人型】
- 4 タラッキーキャンプ
- 5 家族で体験フェスティバル2022
- 6 シャワー★チャレンジキャンプ!
- 7 ☆謹賀新年☆宿泊体験☆
- 8 木育キャンプ
- 9 生活・自立支援キャンプⅠ
- 10 生活・自立支援キャンプⅡ
- 11 来てみんなⅠ
- 12 来てみんなⅡ
- 13 EnglishDayCamp
- 14 グループをチームに育てるプログラム研修会
- 15 チームマネジメント向上のための研修会
- 16 自然体験活動ボランティア養成研修
- 17 ボランティア自主企画秋分キャンプ
- 18 ボランティア自主企画真冬の探検隊

II 事業管理運営記録

III 管理運営状況

IV 施設業務運営委員

V 組織図・職員名簿

事業実績一覧

No	事業名	事業趣旨	対象	期日	人数(人)	備考
1 青少年教育に関するモデル的事业						
ア 実践研究事業 イ 地域の実情を踏まえた特色あるプログラム事業(特色化事業)						
1	自然の家ハイパーレスキューチーム スタートアップキャンプ	小学5・6年生の児童たちを対象に、災害から身を守るために必要な知識・技能を身につけ、防災に対する真摯な態度の育成を図る。また、災害時に想定される避難所生活の疑似体験を通して、主体的に判断し行動する力や、互いに助け合う心情を育む。	小学4～6年	9/17(土)	24	台風のため 日帰り実施
ウ 地域探究プログラム						
2 3	全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」 オリエンテーション合宿 in 諫早 Create the Future in Isahaya 2022	高校生が地域づくりや地域の課題解決などに関する体験活動と おして、課題発見・解決能力を高め、それぞれの実践活動の成果や 自身の成長を適切に評価する力を身に付けることにより、新たな価 値を創造する人材を育成するとともに、青少年の体験活動に関す る社会的な認知を高める。	【高校】 長崎北陽台高等学 校 【個人】高校1～2 年生 【地方SIOR合宿参 加者	【北陽台高校】 4/20(水)～4/21(木) 【個人参加型】 8/3(水)～8/4(木) 【地方ステージ】 12/25(日)～12/26(月) 阿蘇	【北陽台】 39 【個人】 15 【地方S】 0	
2 社会の要請に応える体験活動等事業						
ア 親子・幼児等を対象に自然体験や読書活動などに親しむ機会と場を提供する事業						
4	タラッキーキャンプ	小学1～2年生の児童及びその保護者を対象に、絵本の読み聞かせ やワークショップ等、絵本の世界を体験し、本に親しむ活動の機会 や多くの家族が交流できる場をつくることにより、体験活動等の重 要性を広く普及・啓発する。	小学1～2年生 及び保護者	①9/3(土)～9/4(日) ②10/8(土)～10/9(日)	①27 ②25	
5	家族で体験フェスティバル2022	様々な体験活動を通して、体験活動の楽しさを体感してもらうと ともに、体験活動の重要性の普及と啓発を図る。また、本事業の取 組を通じて、関係団体との連携をより一層緊密にし、地域における 体験活動の定着・発展を推進する。	長崎県内在住の幼 児や小・中・高・大 学生のいる家族	①10/22(土) ②10/23(日)	①26家 族 94 ②48家 族 173	共催：諫早市こども の城、コスモス花宇宙 館、佐賀県黒髪少年 自然の家、佐賀県波 戸岬少年自然の家、 佐賀県北山少年自然 の家
6	シャワー☆チャレンジキャンプ	季節に特化した自然体験活動を通して自然に親しむ心と自然体験 活動への関心を高めるとともに、友達と協力することの大切さに気 付く。	小学3・4年生 及び保護者	7/9(土)～7/10(日)	20	
7	☆謹賀新年☆宿泊体験☆ ～家族で素敵な年を迎えよう～	日本の伝統文化の一つである「書」活動について、青少年の文化体 験活動の裾野をより広げることを目的に、書き初めに関連するイ ベントを開催し、青少年やその家族を対象に書き初めや日本の伝統文 化に触れる機会を設ける。	幼稚園年中児～小 学校3年生とその 家族	1/7(土)～1/8(日)	12家族 42	

	子ども体験フェスティバル2022in佐賀	様々な体験活動を通して、体験活動の楽しさを体感してもらうとともに、体験活動の重要性の普及と啓発を図る。また、本事業の取組を通じて、関係団体との連携をより一層緊密にし、地域における体験活動の定着・発展を推進する。	幼児や小・中・高・大学生のいる家族、学童クラブ等	①北山10/2(日) ②黒髪10/10(月) ③波戸岬10/16(日)	①50 ②120 ③100	
	まちdayキャンプ!	自然体験活動や読書活動などを通して、体験活動の楽しさを体感してもらうとともにSDG'sについて知ってもらい、体験活動の重要性やSDG'sの普及と啓発を図る。また、本事業を通じて関係団体との連携を図り、市街地における体験活動の定着・発展を推進する。	幼児や小・中・高・大学生のいる家族	①10月30日(日) ②12月25日(日) ③3月5日(日)	①10家族 ②10家族 ③10家族	
イ 青少年を対象に体験活動を通じた自己成長や自己実現等を図る事業						
	こどものくに『ながさKids☆Town』	就業、納税、消費、まちの運営等の活動を通して、社会や政治経済の仕組みを学ぶ。また、職場体験等を通して、職業選択やまちのデザインを考えるとともに、SDGsなど社会の有り様を学ぶ。さらに、それらの活動を通して、異年齢の交流、文化の継承、地域への愛着心を芽生える一助とする。(仮)	小学3～中学3年生	10/9(日)～10/10(月祝)	70	
ウ 防災・減災教育事業						
	【再掲】実践研究事業、特色化事業 自然の家ハイパーレスキューチーム スタートアップキャンプ					
エ 環境教育や人権教育などのESDに対応した事業						
8	木育キャンプ	次代を担う子供たちに対し、木についての様々な体験を通して理解を深め、自然に親しむ心情や社会性を育てるとともに、森林や環境問題に対する正しい理解の基礎を育み、持続可能な社会づくりの担い手育成の一助とする。	小学4～中学1年生	①10/15(土)～10/16(日)日吉 ②11/5(土)～11/6(日)西彼 ③1/21(土)～1/22(日)諫早 ④1/22(土)黒髪 ⑤2/25(土)～2/26(日)北山	①40 ②12 ③22 ④40 ④32	共催:長崎県緑化推進協会 主催:西彼青年の家、日吉自然の家、佐賀県黒髪少年自然の家、佐賀県立北山少年自然の家
オ 健康教育や主権者教育など政策課題に対応した教育事業						
カ その他						
	子どもゆめ基金助成金募集説明会	子どもゆめ基金助成金募集説明会を開催し、広く当基金の存在を周知することで、体験活動を推進する機運の向上を図る。	青少年団体関係者等	①9/10(土)長崎 ②9/11(日)佐賀	①8団体 ②1団体	協力:長崎県教育委員会、佐賀県教育委員会(予定)

3 課題を抱える青少年を支援する体験活動事業						
ア 課題を抱える青少年を支援する体験活動事業						
9	生活・自立支援キャンプⅠ (児童養護施設の子ども支援事業)	児童養護施設の子供たちが、自然体験や生活体験を通じて、自尊感情を高めるとともに、体力の向上及び基本的な生活習慣の定着を図る。	児童養護施設の児童生徒	8/10(水)～8/12(金)	32	対象:済昭園
10	生活・自立支援キャンプⅡ (ひとり親家庭の子ども支援事業)	ひとり親家庭の子供たちが共同宿泊生活体験を通して、「早寝早起き朝ごはん」・「家庭学習の習慣」といった基本的な生活習慣や、家庭で生かせる献立作りや調理法・栄養バランス等の「食育」に関する知識・技能を身につけ、できる体験を積み重ねることで、自尊感情を高める一助とする。	ひとり親家庭の児童	7/16(土)～7/18(月・祝)	33	協力:県内の母子寡婦会
11 12	不登校・引きこもり等の課題を抱える青少年の支援事業 「自然の家にきてみんね」「チョイス」	自然の家での様々な体験活動を通して、不登校、引きこもりなどの課題を抱える青少年に自然体験活動の楽しさや達成感を感じさせ、自己肯定感や自己有用感を高める。また、他者との交流や自然の家での規則正しい生活を通して、基本的な生活習慣づくりのきっかけとする。なお、今年度からは、子ども食堂との連携を視野に入れて対象を広げる。	不登校・引きこもり等の児童・生徒	通年 (通常期:毎週月曜日) (閑散期:常時相談) ①10月31日(月)医療センター	①15	対象:子ども医療福祉センター
4 グローバル人材の育成を見据えた国際交流事業						
ア 日独の青年及び青少年指導者等の交流事業						
※本部主催の国際交流事業が主						
イ アジア及びミクロネシア地域の青少年交流事業						
※本部主催の国際交流事業が主						
ウ 国内での国際交流事業(イングリッシュキャンプ等)						
13	English Day Camp (諫早市教育委員会委託事業)	自然体験活動の中で、英語を聞いたり話したりすることを通して、英語によるコミュニケーションの楽しさを実感させるとともに、言語や文化について理解を深める。	諫早市内の小学3～4年生	10/1(土)	45	諫早市教育委員会委託事業

5 青少年教育指導者等の養成及び資質の向上に関する事業					
ア 青少年指導者等の養成・研修事業					
a 自然体験活動指導者(NEAL)養成事業					
※隔年開催(令和4年度は夜須高原、大隅)					
b 教員免許状更新講習					
※R4年度から廃止					
c その他					
14	グループをチームに育てるプログラム研修会(6月)	グループの力を生かす体験活動プログラムの体験を通して、基本となる手法や理論の習得を図る。 (特にスポーツ指導やスポーツ活動する子供に関わる大人を対象とする)	スポーツ指導に関わっている方、プレイヤー、教員、施設職員、大学生等	①6/25(土)日帰り ②11月26日(土)日帰り	①7 ②20
15	「体験教育・アドベンチャー教育」の手法による“仲間づくり” チームマネジメント力向上のための研修会(11月) ～わくわくするチームをつくろう～				
イ ボランティアの養成・研修事業					
a ボランティアの養成事業					
16	自然体験活動ボランティア養成研修	青少年の体験活動事業で活動するボランティアスタッフに求められる基礎的な知識・技術を習得するとともに、ボランティア活動への参加意欲を高める。	高校生、高専専門学校生、大学生、社会人	6/18(土)～6/19(日)	20
b ボランティアの研修事業					
c ボランティアによる自主企画事業					
17	大学生のためのボランティア活動推進事業 「自主企画事業支援プロジェクト」	新しい仲間と出会い、協力する自然体験活動を通して、相手の気持ちを考えて行動する力を育む。	小学校4年～6年生	①9/23(金)～9/25(日) ②12/17(土)～12/18(日)	①20 ②21
18	秋分キャンプ ドキドキ！わくわく！真冬の探検隊				

※ 研修支援関係					
キャンプの日	毎月第3日を「キャンプの日」に制定し、キャンプ等の自然体験活動を推進する機運を高め、家族等の利用促進を図る。	幼児や小・中・高・大学生のいる家族	毎月第3日曜日 デイキャンプを実施 ※前日土曜日からの宿泊あり (5,6,10~2月)	土は6家族 日は制限なし	
諫早市少年センター(適応指導教室)	体験活動を通して、協調性・自主性・耐性・感謝の気持ちを育てる。	適応指導教室に通う児童及び生徒	①6/2(木)~6/3(金) ②9/9(金) ③10/6(木)~10/7(金) ④11/18(金) ⑤12/9(金) ⑥2/3(金)	各10程度	
大牟田市昭和教室(適応指導教室)	体験活動を通して、協調性・自主性・耐性・感謝の気持ちを育てる。	適応指導教室に通う児童及び生徒	10/3(月)~10/5(水)	10	
小学校宿泊体験学習担当者事前研修会	諫早青少年自然の家を利用して宿泊体験学習を実施する小学校が、目的やねらいを明確にした、より教育効果の高い活動プログラムを計画できるようにするために、各校の担当者を対象とした事前研修及びプログラム調整会を行う。	本施設利用の大牟田市及びみやま市立小学校の担当者	6/10(金)	利用期間 全対象校	
社会教育士講習	社会教育法第9条の5の規定及び社会教育主事講習等規程に基づき、文部科学省より委嘱を受け、社会教育主事となりうる資格を付与すること及び、社会教育に携わる専門的職員等の資質の向上を目的とした講習を実施する。	社会教育主事講習等規程第2条の各号のいずれかに該当する方	1/13(金)~2/7(火) Web研修 2/8(水)~2/17(金) 対面研修	30	

1 青少年教育に関するモデル的事業

ア 実践研究事業

イ 地域の実情を踏まえた特色あるプログラム事業

自然の家ハイパーレスキューチーム スタートアップキャンプ

— 災害時に仲間を助ける力を身につけよう —

〔主催〕国立諫早青少年自然の家

〔期日〕令和4年9月17日(土)

※18日(日)までの1泊2日を予定していたが、台風14号の接近により急遽日帰りの実施に変更した。

〔活動場所〕国立諫早青少年自然の家 キャンプ村

〔参加者〕小学校4～6年生 16名(男6名 女10名)

〔講師〕諫早消防署、諫早市消防団、NPO法人街づくり・防災諫早

〔担当職員〕寺中 拓也、葛島 隆文、西田 尚由

1)趣旨

小学校4年生から6年生の児童を対象に、災害時に救助活動を行うレスキューチームに所属したという設定の下、災害時に想定される困難な状況を工夫してチームで解決する活動を通して、災害に対する日々の備えを見直すとともに、主体的に物事を判断し行動する力や互いに協力して生き抜こうとする態度を育み、防災・減災について自主的に学び考え続ける青少年を育成します。

2)目標

- ① 災害発生時の状況を理解し、日ごろの備えの大切さに気付く。
- ② 被災時に想定される火事、怪我等への対処を学び、共助の精神を養う。
- ③ コミュニケーションを図りながらチームで課題に取り組むことで、課題を解決するための力を身に付ける。

3)プログラム

9月17日(土)	
10:30	開会式
10:40	レスキューチームレベルチェック(課題解決ゲーム)【写真①】
11:00	講義(防災のお話)【写真②】
12:00	昼食、移動
13:00	防災ミッション①(火災発生時の対応)【写真③】
14:00	防災ミッション②(ケガ人等への対応)【写真④】
15:00	防災ミッション③(火おこし体験)【写真⑤】
16:00	ふりかえり【写真⑥】
16:20	閉会式

4)事業展開

① レスキューチームレベルチェック



トランプを使用したゲームを行い、頭で考えて答えを出したり、他の参加者と協力したりする活動を行いました。初めて会ったメンバーも少しずつ笑顔が見られるようになりました。

② 講義(防災のお話)



NPO 法人街づくり・防災諫早の川浪氏より、実際に被災地支援を行った際の写真を見ながら、災害発生時の被害状況やその対応などを学びました。災害の種類によって、被害の状況が全く異なることなどを理解しました。

③ 防災ミッション①(火災発生時の対応)



諫早市消防団、諫早消防署の協力により、水消火器の体験、消防車からホースをつなげ放水する体験を行いました。消防服を着用しホースを握る子供たちの表情からは、気持ちが高まっている様子が伝わってきました。

④ 防災ミッション②(ケガ人等への対応)



諫早消防署の方の実演により、胸骨圧迫やAED の使用方法を学びました。また、ケガにより出血している人がいた時の対処について学び、実際に処置をする練習をしました。

⑤ 防災ミッション③(火起こし体験)



メタルマッチと麻ひもを使用し、火をつける体験をしました。ガスを使用する時と違い、火をつける難しさを感じました。

⑥ ふりかえり



今日学んだこと、これから頑張りたいことを共有しました。ハイパーレスキューチームの一員として、決意を新たにしました。

5) 評価

① アンケート結果(事業全体に対する満足度)

満足	やや満足	やや不満	不満
87.5%	12.5%	0%	0%

② 参加者の声

- ・ もし人が倒れていたケガをしている人がいたら、勇気を出して声をかけてみようと思いました。今日やったことを生活に活かしていきたいです。
- ・ 学校の勉強よりいろいろ知ることができたと思う。
- ・ 人を助けることは難しいと思いました。
- ・ ライター以外に火をつける方法を知らなかったのが、初めての火起こしで失敗したけど楽しかったです。
- ・ 仲間と協力してやることの大切さに気付いた。

6) 成果と課題

① 成果

- ・ 諫早市危機管理課と連携し事業内容を検討したことで、諫早消防署、諫早市消防団の方に協力をいただき、災害対応のプロフェッショナルが指導する体験を子供たちに提供することができた。
- ・ サイレンを鳴らした消防車が到着する、制服を着用した署員、団員の方に指導してもらえるなど、災害発生時の臨場感ある活動としたことで、子供たちの好奇心を高めることができ、活動に意欲的に取り組む姿が見られた。
- ・ ハイパーレスキューチームの一員であるという設定を、協力いただく講師の方と事前に共有していたことによって、職員や講師が共通理解の下に指導に当たることができ、子供たちもそのような設定を理解し、楽しんでいる様子であった。
- ・ 災害の様子が分かる写真を見せながら説明したことで、子供たちの理解を深めることができた。

② 課題

- ・ 通常の利用団体へ防災・減災体験活動プログラムとして提供できるよう、今回実施した活動をパッケージ化していく。そのためには、一つ一つの活動を整理し、ストーリーのあるプログラムとなるよう修正していく必要がある。また、各講師の直接指導がなくても臨場感ある体験となるような工夫が必要である。
- ・ 今回のキャンプで防災・減災に関する知識や技術を身に付けただけで終わらずに、参加者が防災・減災について今後自主的に学び考え続けていくような手立てを考えたい。



目標4 質の高い教育をみんなに
防災・減災教育について体験を通して学ぶ機会を提供します。



目標11 住み続けられるまちづくりを
災害によってどのような被害が起こり得るかを理解します。



目標6 安全な水とトイレを世界中に
被災時の水の確保の重要性や衛生環境の大切さについて理解します。



目標13 気候変動に具体的な対策を
気候変動が自然災害の発生に影響していることを学びます。

全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」
～オリエンテーション合宿 in 諫早 学校参加型～

〔主催〕国立諫早青少年自然の家
〔期日〕令和4年4月20日(水)～21日(木)
〔活動場所〕国立諫早青少年自然の家
〔参加者〕長崎県立北陽台高等学校 第1学年(1クラス:40名)
〔講師〕九州電力長崎支店広報グループ、県央振興局農林部林業課、
NPO法人インフィニティー理事長野口美砂子
〔担当職員〕小野 栄策

1)趣旨

高校生が地域づくりや地域の課題解決などに関する体験活動を通して、課題発見・解決能力を高め、それぞれの実践活動の成果や自身の成長を適切に評価する力を身に付けることにより、新たな価値を創造する人材を育成するとともに、青少年の体験活動に関する社会的な認知を高めます。

2)目標

- ① 地域の課題解決などに関する体験活動を通して、課題発見・解決能力を高める。
- ② 1年生に理数科生としての自覚をもたせ、集団行動を通して、協調性や自主性を養う。

3)日程

1日目	1日目	2日目
6:30		起床・準備
7:00		朝食(レストラン)
8:00		清掃活動
9:00	学校出発	発表準備
10:00		研修4 発表「仮説についての発表」
10:30	入所式	
11:00	野外炊事(調理)	研修5 「実践活動のためのガイダンス」
12:00	昼食(野外炊事)	昼食(レストラン)
13:00	野外炊事(片付け)	学級レクリエーション
14:00	研修1 ガイダンス(森林環境)	退所式
14:30		
15:00	研修2 フィールドワーク(森林探索)	
17:00	夕食(レストラン)	16:00 学校着
18:00	入所OR	
19:00	研修3 「探究のプロセスの基礎・実践」	
21:00	入浴、就寝準備等	
22:30	就寝	

4)活動の様子



【入所式】

出会いの時間です。生徒一人一人が自己紹介をしました。入学してまだ間もないだけに、お互いを知る良い機会となりました。開会行事では、職員の自己紹介、地域探究プログラムの概要の説明などを行い、今回の合宿が学級の親睦を深めことも目的の一つであることを確認しました。



【野外炊事】

探究活動を行うグループごとに、役割分担と協働作業の意識を高めるために、まず野外炊事(カレー作り)を行いました。準備や調理、片付けの工程をみんなで確認しながら、作業にあたりました。火がつかなかったり、お米が炊けなかったりする場面もありましたが、メンバーがフォローしあって無事に昼食をとることができました。



【森林環境ガイダンス】

九州電力長崎支店広報グループ池上さん、井原さんからエネルギーと環境について、県央振興局農林部林業課普及班専門幹黒岩さん、黒川さんから長崎県の林業の概要とウッドショックについて説明をしていただきました。幅広い知識を紹介した難しい内容でしたが、みんな真剣に耳を傾けていました。



【フィールドワーク(森林探索)】

九州電力みらい財団が進めている植林地や諫早市が行っている人工林を自然林に生まれ変わらせるための伐採地を観察するために、ウォークラリー形式で森林探索を行いました。また、動物・植物にも目を向け、観察カードに気づきを記録しました。地図の見方が十分に理解できておらず、時間通りにコースを周ることができませんでした。



【探究のプロセス】

NPO法人インフィニティー理事長野口さんのコーディネートのもと探究のプロセスについて学習した後、森林環境ガイダンスやフィールドワークで考えたこと、疑問に思ったことをグループで出し合い、今後、みんなで調べたいことをひとつにまとめました。



【発表準備】

昨日から話し合ってきた内容を模造紙にまとめました。講師の先生からアドバイスしていただいた「やりたいこと、できること、やらねばならないこと」を意識して熱心に話し合いをしていました。所々、講師の先生に質問したり、タブレットで調べたりしながら提案する内容を精査しました。模造紙にまとめる人、原稿を準備する人、説明図を書く人など、役割分担を行いながら、準備を進めました。



【仮説についての発表】

模造紙にまとめた課題と課題解決のための仮説、検証方法をクラスで共有しました。発表は班別に行い、自分たちに何ができるのかを高校生の目線で考え、分かりやすく発表しました。発表後は質疑応答の時間を設け、意見交換することで、学びの質を高めました。

5) 評価

(1) アンケート結果(キャンプ全体に対する満足度)

	満足	やや満足	やや不満	不満
長崎北陽台高等学校	97%	3%	0%	0%

(2) 参加者の声

- ・クラスの仲も深まったと思うし、これから色々なことをじっくり考えていきたい。
- ・みんなで話し合う力がつきました。
- ・協力することの大切さを知ったので、これからの学校生活に生かしたいです。
- ・他の人の意見を聞くことで視野が広がりました。
- ・助け合うことの大切さを学びました。男女関係なく仲良くなれてよかったです。
- ・様々なことに関心が高まったので、学校でその疑問を解決していきたいです。
- ・研究を進める時に、どのような手順で進めればよいか理解することができた。
- ・みんなで考えることの大切さを学びました。たくさんの失敗と成功を体験して、濃い二日間でした。

6) 成果と課題

① 成果

- ・様々な立場の方々(九電の取組、林業課の取組、NPO法人インフィニティーの取組)が生徒たちに森林環境についての取組や課題を紹介し、生徒の興味・関心を高めることができました。
- ・個人ではなく、クラスやグループで考えることの良さを体感させ、探究のプロセスを学ばせることができました。
- ・入学して間もないこの時期に合宿を行えたことで、クラスの仲も深まり、今後の学校生活を円滑に進めるための一助となりました。

②課題

- ・生徒の実態や先生方の思いを把握し、本所の事業を開催するにあたっての目的とすり合わせしていく必要があります。
- ・所属する高等学校との連携等、オリエンテーション合宿で高まった活動へのモチベーションを保つための方策の検討が必要です。
- ・オリエンテーション合宿の内容や取組のよさを長崎県内の高等学校の教諭に広報する必要があります。



目標4 質の高い教育をみんなに

体験活動や集団宿泊学習で「探究のプロセス」を学びます。



目標 16 平和と公正をすべての人に

「協働的な学び」を中心とした体験活動を通して、高校生が学びに向かう力を高めます。

全国高校生体験活動顕彰制度「探究プログラム」
オリエンテーション合宿 in 諫早 Create the Future in Isahaya 2022
～集え！郷土を創る Planner～

〔主催〕国立諫早青少年自然の家
〔期日〕令和4年8月3日(水)～4日(木)
〔活動場所〕国立諫早青少年自然の家
〔参加者〕15名(男性0名、女性15名)
〔講師〕門田 卓史 (株)エデュ アクティバーターズ代表
〔担当職員〕小野 栄策、葛島 隆文、西田 尚由、寺中 拓也

1)趣旨

本顕彰制度は、平成30年度告示の学習指導要領で示された「資質・能力の三つの柱」を軸に、探究力を高めるためのカリキュラムを作成しています。カリキュラムを通して、自然の家で提供する体験活動や集団宿泊学習で「探究のプロセス」を学ぶとともに、実際の地域での実践活動を行い、その成果を「実践報告書」としてまとめ発表することで、高校生自身の学びを深めることができます。

特に、当所では、探究的な学習の質を高める「協働的な学び」を中心とした体験活動が「主体的・対話的で深い学び」につながり、高校生が学びに向かう力を高め、次の一步を踏み出すための機会を提供します。

2)目標

- ①「探究のプロセス」に沿った探究活動を実践できる。
- ②自身が所属する地域の課題を発見し、解決しようとする意欲を高める。

3)プログラム

1日目	2日目
(送迎)	6:30 起床、準備
10:00 到着、開会式	7:00 朝食(レストラン)
10:30 アイスブレイク【写真①】 ガイダンス	8:00 宿泊棟清掃、活動準備
11:00 グループで課題を解決する活動Ⅰ【写真②】	9:00 ワークショップ(野外炊事) 協働作業による実践【写真⑥】
12:00 昼食(レストラン)	12:00 講義・演習Ⅱ
13:00 講義・演習Ⅰ【写真③】【写真④】 グループで課題を解決する活動Ⅱ	個人課題を見つけるワーク 【写真⑦】
17:00 夕食(レストラン)	グループ発表Ⅱ【写真⑧】
18:00 入所オリエンテーション	15:00 ガイダンス
19:00 本日の活動の振り返り グループ発表Ⅰ【写真⑤】	15:30 退所式
21:00 入浴、就寝準備	出発 (送迎)

4)事業展開

① アイスブレイク



参加者同士が打ち解けあえるように簡単なゲームを行いながら関係づくりを行った。

② グループで課題を解決する活動Ⅰ



グループを編成し、簡単な課題を解決する方法を学び、話し合い活動のスキルを高めた。

③ グループで課題を解決する活動Ⅱ



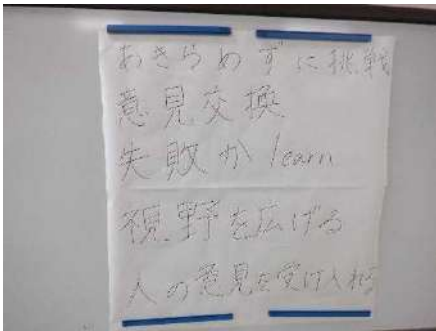
I-CAP(諫早コミュニケーションアドベンチャープログラム)を体験し、協働の学びを深めた。

④ 活動Ⅱ(振り返り)



活動の合間に、話し合いや振り返り活動を入れ、学校で生かせるスキルをまとめた。

⑤ グループ発表Ⅰ



本日を行った「正解のない課題」に取り組むために何が必要か全員でまとめた。

⑥ 協働作業による実践



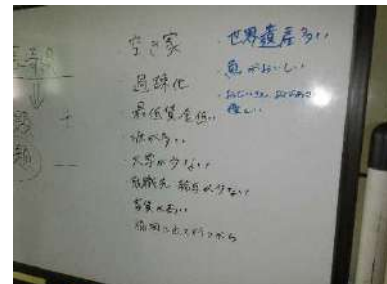
一日目の「協働の学びを深めるために」必要なことを実践するために野外炊事を行った。

⑦ 個人課題を見つけるワーク



自分で調べたい地域課題を設定し、参加者がインタビュアーとなり、内容を吟味した。

⑧ グループ発表Ⅱ



話し合った内容を発表し、ホワイトボードにまとめて、全員で共通理解した。

5) 評価

① アンケート結果(事業全体に対する満足度)

満足	やや満足	やや不満	不満
80%	20%	0%	0%

② 参加者の声

- ・今までしっかり話し合いをして課題を解決しようとするのがあまりなかったので、いい経験になりました。他の学校の人たちとも仲良くなって、いろいろな話を聞くことができました。活動して、振り返りが多かったのも、より意見や考えが深まったと思いました。
- ・自分たちで話し合ってみんなが納得する答えを出すことの大切さを感じました。「正解のない課題にどのように取り組むか」「チームで協働するには」について1つずつ考えたので、実践しようと思います。
- ・自分たちで考えて行動する場面がたくさんあったので、自分も意見を出そう、話し合いに参加しようと思い、頑張れました。学校での話し合いの場面で、今回の合宿で学んだ、あきらめずに考えること、話している人に反応すること、分かりやすく伝える努力をすることを大切に実行したいです。

6) 成果と課題

① 成果

- ・今回の活動のテーマである「正解のない課題にどう取り組むか」「チームで協力するにはどうするのか」を意識して、諫早青少年自然の家で提供できるプログラムを整理できた。
- ・具体的探究のサイクルを体験し、協働的に学ぶことの楽しさを実感することができた。感想の中にも、この学びは日常の学校生活で生かせることに気づいていた。

② 課題

- ・もっと探究活動が深まるように、参加者のニーズを把握し、「何のために行うのか」を考え活動プログラムを計画する必要がある。
- ・日々の実践から、担当者のファシリテーター力を高めていく。
- ・個人課題の立て方、地域課題の調べ方、テーマの持たせ方等、協働の学び2サイクル目の取組方を考える必要がある。



目標4 質の高い教育をみんなに

体験活動や集団宿泊学習で「探究のプロセス」を学びます。



目標16 平和と公正をすべての人に

「協働的な学び」を中心とした体験活動を通して、高校生が学びに向かう力を高めます。

- 1 社会の要請に応える体験活動等事業
 ア 親子・幼児等を対象に自然体験や読書活動などに親しむ機会と場を提供する事業

タラッキーキャンプ ～しぜんを“たんけん”しよう！～

〔主催〕国立諫早青少年自然の家

〔期日〕1 回目:令和 4 年 9 月 3 日(土)～4 日(日) 2 回目:令和4年 10 月 8 日(土)～9 日(日)

〔活動場所〕国立諫早青少年自然の家

〔参加者〕小学1・2年生及び保護者

1 回目:児童 27 名(男子 17 名、女子 10 名) 2 回目:児童 25 名(男子 7 名、女子 18 名)

〔講師〕1 回目:戎 佐知子(絵本専門士) 2 回目:戎 佐知子(絵本専門士)、鈴木 みゆき(國學院大學教授)

〔担当職員〕1 回目:西田 尚由、小野 栄策、宇都 志津佳、稲原 諒馬

2 回目:西田 尚由、高山 雄也

1)趣旨

五感で楽しむ自然体験、絵本の読み聞かせや絵本についてのワークショップ等を通して、絵本に親しむとともに自然に親しむ心を育む。また、規則正しい生活を送り、「早寝早起き朝ごはん」の定着を促すとともに、児童一人一人の自立心を育てる。

2)目標

- ① 初めて出会った新しい仲間と仲よく活動する。
- ② 初めて1人での宿泊を体験する児童も少なくないことが考えられるので、食事や入浴等のマナーを学び、規則正しい生活を送ることができる。
- ③ 活動につながるような絵本を導入に活用することで、絵本と自然体験活動等に親しむ心を育む。

3)プログラム

1 日目	2 日目
13:00 受付	6:30 起床
13:30 はじまりの会	6:50 ラジオ体操
絵本読み聞かせ 【写真①】	7:00 朝食(レストラン)
仲良くなるゲーム 【写真②】	8:00 部屋清掃・荷物整理
14:30 野外活動	9:00 クラフト作成
1回目:沢探検 【写真③】	1回目:ストーンアート 【写真⑨】
2回目:森探検 【写真④】	2回目:ネイチャークラフト【写真⑩】
17:00 夕食(レストラン) 【写真⑤】	※10:00～ 絵本についてのワークショップ
18:00 入浴	【保護者のみ】
19:00 ベッドメイキング 【写真⑥】	(絵本の効果や読み聞かせの方法につ
20:30 1日の振り返り	いて) 【写真⑪⑫】
20:30 絵本読み聞かせ 【写真⑦⑧】	11:00 おわりの会
21:00 就寝	11:30 解散

4)事業展開

① 絵本読み聞かせ



各活動の前に導入として講師による絵本の読み聞かせを行いました。子ども達は毎回の読み聞かせを楽しみにしており、反応も良く、集中して聞くことができました。2日間で合計6～7冊の絵本を読みました。

③ 野外活動(1回目:沢探検)



天気が心配でしたが、無事に沢登りを実施できました。みんなで協力し、無事にゴールすることができました。途中、翌日のクラフトで使う石を収集しました。

⑤ 食事



食事は、食べ残しが無いように自分が食べられる量を判断しながら配膳しました。好き嫌いせず、バランスよく配膳する参加者もいました。

② 仲良くなるゲーム



初めて出会った子ども同士がお互いに自己紹介を行い、名前を覚えるゲーム等、仲間づくりを行いました。学年や性別に関係なく、みんな楽しく活動できました。

④ 野外活動(2回目:森探検)



フィールドビンゴを行いました。活動班で協力し、自然を感じながら、たくさんのビンゴをそろえることができました。途中、翌日のクラフトで使う木の実や木の枝、葉っぱ等を収集しました。

⑥ ベッドメイキング



あまり経験したことがない、慣れない活動でしたが、“自分でやる”ということを意識しながら、一人一人が一生懸命に頑張りました。ボランティアスタッフも補助しながら就寝準備をすることができました。

⑦ 就寝前の絵本読み聞かせ(1回目)



⑧ 就寝前の絵本読み聞かせ(2回目)



1日目の活動終了後に、就寝前の絵本の読み聞かせを行いました。1回目は講師により全員一斉に実施しました。読み聞かせの後には落ち着いた雰囲気になりましたが、部屋へ移動する際に気分が高揚した参加者も多くみられました。この課題を改善するため、2回目は各部屋ごとに分かれて、ボランティアやスタッフによる読み聞かせを実施することで、読み聞かせの後も落ち着いた状態で就寝を促すことができました。

⑨ クラフト作成(1回目)



⑩ クラフト作成(2回目)



キャンプの思い出として、クラフト活動を行いました。1回目はストーンアート、2回目にはネイチャークラフトを行いました。材料の石や木の実等は、前日の野外活動で収集した物を使用しました。一人一人が個性的な作品を作成しました。おわりの会において、作品の説明をグループ内で発表し合い、その様子を保護者に見てもらいました。

⑪ 絵本についてのワークショップ(1回目)



講師(戎氏)より参加者の保護者に対して絵本の効果や読み聞かせの方法等についての講話、折り紙を使って葉を作るワークショップを行いました。保護者の方の意識も高く、講話終了後にも積極的に講師へ質問をする様子も多く見られました。

⑫ 絵本についてのワークショップ(2回目)



講師(鈴木氏)より参加者の保護者に対して絵本や読書の読み聞かせの効果等についての講話を行いました。様々な研究データを基に、分かりやすく、また、面白い語り口が好評で、参加者全員、最後まで楽しく話を聴くことができました。

5) 評価

① アンケート結果(事業全体に対する満足度)

	1回目	満足	やや満足	やや不満	不満
参加児童	95%	5%	0%	0%	
保護者	88%	4%	4%	4%	
	2回目	満足	やや満足	やや不満	不満
参加児童	96%	4%	0%	0%	
保護者	83%	17%	0%	0%	

② 参加者の声

- ・沢登り等、家族では体験しにくいことにチャレンジさせることができた。
- ・身体を使ったり、自然と触れ合って五感を使って活動したり、とても魅力的だった。
- ・自分で考えて準備ができるようになり、成長を感じた。
- ・キャンプのタイムスケジュールが詳しくわからず、心配だった。
- ・子どもたちと本を読む時間の大切さ、基本的な生活習慣の必要性を改めて感じた。また、睡眠についても考え直すいい機会になった。

6) 成果と課題

① 成果

- ・“活動ごとに導入部分で絵本の読み聞かせを行う”という初めての試みに挑戦したが、絵本専門士の先生と連携しながら、効果的に絵本の読み聞かせを行うことができた。
- ・子どもたち一人一人が“できることは自分です”ということ意識しながら、最後まで頑張って活動することができた。
- ・これまでの事業では、子どもたちのみの活動が中心となるものが多かったが、今回は、保護者にも学んでもらう機会を設定し、絵本や読み聞かせの大切さを理解し、意欲を高めることができた。

② 課題

- ・“小学校低学年の子ども”という対象者理解が不十分だったため、予定していた以上に時間を要してしまい、プログラム通りに日程を進めることができず、周囲へ迷惑をかけることもあった。
- ・ストーンアートに適した石を施設周辺で集めることができず、活動が難しかったが、参加者は楽しみながら、個性的な作品を制作することができた。
- ・今回、“絵本についてのワークショップ”は保護者に対してのみの活動として実施したが、親子で一緒に取り組むような活動を取り入れることも検討してみたい。



目標4 質の高い教育をみんなに

絵本にふれる体験を通して、読書活動の推進を図ります。



目標15 陸の豊かさも守ろう

自然体験を通して、川や森林の美しさ、生態系を守ることの大切さを考えます。食事指導において、食品ロスにならないよう、自身の食べる量を適切に判断できるようにする。

- 1 社会の要請に応える体験活動等事業
 ア 親子・幼児等を対象に自然体験や読書活動などに親しむ機会と場を提供する事業

家族で体験フェスティバル 2022 ～自然体験 × スポーツ × SDGs～

〔主催〕国立諫早青少年自然の家

（企画・運営：佐賀・長崎地域ぐるみで「体験の風をおこそう運動」推進実行委員会）

〔期日〕令和4年10月22日(土)～23日(日)

〔活動場所〕国立諫早青少年自然の家

〔参加者〕 【10/22(土):宿泊】 【10/22(土):日帰り】 【10/23(日):日帰り】

	男	女	計	男	女	計	男	女	計
未就学児	0	3	3	10	16	26	22	17	39
小学生	4	7	11	13	12	25	20	33	53
中学生	0	0	0	0	0	0	1	1	2
大人	7	10	17	20	23	43	31	48	79
合計	11	20	31	43	51	94	74	99	173

〔協力団体〕長崎県立希望が丘高等特別支援学校和太鼓部、ガールスカウト長崎県連盟、日本ボーイスカウト長崎県連盟長崎第8団、日本ボーイスカウト長崎県連盟大村第1団、長崎県シェアリングネイチャー協会、長崎県レクリエーション協会、NPO法人インフィニティー、ルノン株式会社、鷹匠、バルーンアートほっと、諫早市子ども会育成連合会、長田地区婦人会、北山少年自然の家、黒髪少年自然の家、波戸岬少年自然の家、西彼青年の家、佐世保青少年の天地、日吉自然の家、諫早市こどもの城、コスモス花宇宙館

〔担当職員〕全職員

1)趣旨

家族で様々な体験活動の楽しさを体感してもらうとともに、体験活動の重要性の普及と啓発を図る。また、本事業の取組を通じて、関係団体との連携をより一層緊密にし、地域における体験活動の定着・発展を推進する。

2)目標

- ①多くの家族に体験活動の楽しさを知ってほしい。
- ②多くの団体と連携して、活動を提供したい。
- ③体験活動の重要性の普及と啓発を図る。

3)プログラム

1日目・2日目
9:30 受付
10:00 オープニングセレモニー (1日目:長崎県立希望が丘高等特別支援学校和太鼓部) (2日目:道辻結那さん with コーチ ミニコンサート)

10:30 活動開始 ※途中退館自由

- ・オリンピックレガシー巡回展示
- ・キャンプ体験[テント・スラックライン、たき火(火おこし)・ハンモック]
- ・自然体験[ネイチャーゲーム、ロープワーク・火おこし体験、野点(アウトドア茶道)、
バードパフォーマンス、ディスクゴルフ、ミニオリエンテーリング]
- ・あそぶ・まなぶ[手旗信号体験、薪投げゲーム(クubb、モルク)、スポーツチャンバラ、
遊びオリンピック、SDGsラリー]
- ・つくる[ドリームキャッチャー・紙トンボ、手作りクラフト、バルーンアート、丸太のマグネット
ブンブンごま、パットボールキャップごま、木工細工、グラスサンドアート、リジカルコースター]
- ・食べる(食事)ブース[軽食販売、カレーライス]

15:30 終了

4)事業展開

①オリンピックレガシー巡回展示



②遊びオリンピック



③長崎県立希望が丘高等特別 支援学校和太鼓部



④道辻結那さん with コーチ ミニコンサート



⑤キャンプ体験



⑥ネイチャーゲーム体験



⑦火おこし体験



⑧バードパフォーマンス



⑨手旗信号体験



⑩SDGsラリー



⑪ドリームキャッチャーづくり



5) 評価

① アンケート結果(事業全体に対する満足度)

満足	やや満足	やや不満	不満
96%	4%	0%	0%

② 参加者の声

- ・ 初参加でしたが、小さい子でも楽しめるよう声掛けしてもらい、とても楽しく過ごすことができました。キャンプなどでまた来たいと思います。
- ・ 昨年も楽しかったので今回も参加しました。いろいろな体験ができて体も動かして良い経験ができました。来年もぜひ参加したいです。
- ・ オープニングにとっても感動です。毎年楽しみで、もっと多くの人に来てほしいイベントです。

6) 成果と課題

① 成果

- ・ 昨年度の日帰り2日間開催に加え、宿泊受入れ、事前申込み家族数の増加ができ、より多くの家族に体験活動の場を提供することができた。
- ・ 新規の協力団体とバードパフォーマンス、オリジナルコースター、バルーンアートの活動を提供できた。

② 課題

- ・ 事前申込みの定員に関して、活動数、レストランの座席数、駐車場の台数等を考慮して設定したが、複数台で来所する家族も多く、駐車場が混雑した。
- ・ 申込み締切に申込者が定員に達しなかったため、期間を延長して広報を行った。SNS を主にした事業広報としたため、費用対効果とのバランスも含めて今後も広報手段を検討したい。



目標4 質の高い教育をみんなに

家族で様々な体験活動の楽しさを体感してもらい、体験活動の重要性の普及と啓発を図る。



目標12 つくる責任、つかう責任

体験活動を通じて、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに意識を持つようにする。



目標15 陸の豊かさも守ろう

体験活動を通して、森林、山地等の陸域生態系のサービスの保全、回復及び持続可能な利用に意識を持つようにする。



目標17 パートナーシップで目標を達成しよう

事業実施を通して、多くの関係団体の経験やノウハウを基とした、効果的なパートナーシップを推進する。

- 1 社会の要請に応える体験活動等事業
 ア 親子・幼児等を対象に自然体験や読書活動などに親しむ機会と場を提供する事業

シャワー★チャレンジキャンプ！
 ～自然のシャワーを浴びて仲間と一緒に Let's try!～

〔主催〕国立諫早青少年自然の家
 〔期日〕令和4年7月9日(土)～10日(日)
 〔活動場所〕国立諫早青少年自然の家
 〔参加者〕小学3・4年生 20名(男性12名、女性8名)
 〔担当職員〕貞方 貴衣、葛島 隆文、西田 尚由、稲原 諒馬

1)趣旨

季節に特化した自然体験活動を通して自然に親しむ心と自然体験活動への関心を高めるとともに、高い目標にチャレンジすることや友達と協力することの大切さに気付く。

2)目標

- ①自分のことは自分です。
- ②何事にもチャレンジする。
- ③相手のことを考えて行動する。

3)プログラム

1 日目	2 日目
13:30 はじまりの会 保護者説明会	6:30 起床
14:00 アイスブレイク【写真①】 仲間づくりゲーム	7:50 朝食(レストラン)
15:10 Let's try! 野外ですき焼き作り 【写真②】	9:00 Let's try! 沢登り(深海川コース) 【写真③】【写真④】
19:00 一日の振り返り	12:30 着替え 昼食(弁当)
20:00 入浴、就寝準備	13:50 振り返り・発表準備・保護者説明会
21:45 就寝	14:30 発表会
	終わりの会
	15:00 解散

4)事業展開



① アイスブレイク



② すき焼き作り



③ 沢登り



④ 沢登り

5) 評価

① アンケート結果(事業全体に対する満足度)

満足	やや満足	やや不満	不満
95%	5%	0%	0%

② 参加者の声

- ・助け合いが大事なことがわかった。
- ・友達ができて良かった。
- ・チャレンジや仲間作りが大切だと気付いた。
- ・みんなで協力して楽しくキャンプに参加できた。

6) 成果と課題

① 成果

- ・目標を常に意識して活動に取り組むことで、振り返りや発表までやり遂げることができた。
- ・1泊2日の短い期間の中でも、だんだんとグループで協力して活動に取り組む様子が見られた。
- ・保護者の方にも別の部屋に集まっていただき、体験活動の重要性について講義を実施し、意識付けを行うことができた。

② 課題

- ・沢登りの活動において、大きな怪我は発生しなかったが、体の支え方等でヒヤリハットと思える場面があったので、子どもたちの安全を確保するためには職員、ボランティアともに更なる研修が必要である。
- ・振り返りの時間が長引き、解散時間が遅くなってしまったため、子どもたちの状況に合わせて、タイムマネジメントを徹底する必要がある。



目標4 質の高い教育をみんなに

仲間作りゲームや野外炊飯など活動を通して、自分たちで考えて行動する姿勢を学ぶ。



目標14 海の豊かさを守ろう

沢登りの活動を通して、川の美しさを守ることから海の豊かさにつながっていることに気付く。

☆謹賀新年☆宿泊体験☆
 ～家族で素敵な年をお迎えしよう～

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家
 〔期日〕 令和5年1月7日（土）～8日（日）
 〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家
 〔参加者〕 小学1年生～小学4年生とその家族 11家族 38名（男性11名、女性27名）
 〔担当職員〕 貞方 貴衣、小野 栄策、稲原 諒馬

1) 趣旨

令和5年が始まり、心機一転新たな気持ちで新年を迎えるために、日本の伝統文化体験や自然体験活動を通して、一人一人が一年の目標や抱負を持ってのぞもうとするきっかけづくりとする。

2) 目標

- ①家族団らんの時間を楽しむこと。
- ②自然体験・伝統文化体験を満喫し、その良さと継承していく大切さを学ぶ。
- ③一人一人が新年の抱負を持って、気持ちを整え新年をスタートするきっかけづくりとする。

3) 研修プログラム

1日目	2日目
13:30 はじまりの会・自己紹介 【写真①】	5:30 起床
14:00 お正月遊びを楽しもう！【写真②】	6:00 朝食(早朝活動食)
15:00 今年の抱負を書いてみよう！ ・カラフル筆ペンアート【写真③】	6:30 朝日鑑賞ハイキング ・白木峰高原まで歩き、日の出を鑑賞
17:00 夕食(レストラン)	7:23 日の出時刻【写真⑤】
18:00 茶道体験【写真④】	9:00 宿泊部屋清掃・点検・荷物移動
19:30 荷物移動・入浴・就寝準備・ 保護者の方へのお話 (生活習慣について)	9:30 ぜんざい作り【写真⑥】
21:00 就寝	11:00 2日間の分かち合い
	11:30 解散

4) 事業展開



①はじまりの会



②お正月遊び(自然を使った福笑い)



③筆ペンアート



④茶道体験



⑤日の出



⑥ぜんざい作り

5) 評価

① アンケート結果（事業全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
91%	9%	0%	0%

② 参加者の声

- ・下の子のお世話なども含め、手厚い対応をしていただきありがとうございました。
- ・朝日がきれいに見えてとても良かった。
- ・事業にお誘いいただき良かったと思います。

6) 成果と課題

① 成果

- ・筆ペンアート・茶道体験において、講師をお招きしたことにより、より質の高い、本物の体験を提供することができた。
- ・天候に左右される心配がある活動内容だったが、幸いとても美しい朝日を見ることができ、参加者から感嘆の声を聞くことができた。
- ・保護者の方だけの時間を作り、生活習慣の重要性について講義を実施し、意識付けを行うことができた。

② 課題

- ・ハイキングのように所外へ出る活動の際の隊列はできるだけ間隔が空かないように歩くペースを調整する必要がある。また、暗い中を歩いたため目印が分かりにくかった。スタッフの配置や体制について今後の課題である。
- ・家族事業の際は年齢幅が大きくなるため、余裕のある時間配分や説明の仕方等、工夫が必要である。



目標4 質の高い教育をみんなに

日本の伝統文化や歴史について体験を通して学ぶ機会を提供する。



目標16 平和と公正をすべての人に

家族一丸となって体験する活動を通して、家族や周りの人たちの存在のありがたみを改めて実感することを目指す。

木育キャンプ ～めざせ森林マイスター～

〔主催〕国立諫早青少年自然の家

（企画・運営：佐賀・長崎地域ぐるみで「体験の風をおこそう運動」推進実行委員会）

〔期日〕令和5年1月21日(土)～22日(日)

〔活動場所〕国立諫早青少年自然の家

〔参加者〕小学校4～6年生 21名(男12名 女9名)

〔講師〕長崎県森林ボランティア支援センター フォレストマスター 奥村 公子、蓑田 清隆

〔担当職員〕寺中 拓也、小野 栄策

1)趣旨

次代を担う子供たちに対し、木についての様々な体験を通して理解を深め、自然に親しむ心情や社会性を育てるとともに、森林や環境問題に対する正しい理解の基礎を育み、持続可能な社会づくりの担い手育成の一助とします。

2)目標

- ① 五感を使って自然を感じ、体験する活動を通して、自然への親しみを感じる。
- ② 各活動を踏まえて、森林を植える、育てる(木の伐倒や玉切り)、使う(端材クラフト)の森林サイクルを体験的に理解し、森林と生活の関わりを考える。

3)プログラム

1日目	2日目
9:30 受付	6:50 ラジオ体操
10:00 開会式	7:10 朝食(レストラン)
10:30 ネイチャーゲーム	8:00 部屋清掃・荷物整理
12:00 昼食(レストラン)	9:00 きこり体験 【写真④、⑤】
13:00 ネイチャーゲーム 【写真①】	11:00 火おこし体験
14:30 森林ウォークラリー 【写真②】	12:30 昼食(弁当)
17:00 夕食(レストラン)	13:00 ふりかえり 【写真⑥】
18:00 ベッドメイキング	14:15 閉会式
19:00 木エクラフト 【写真③】	
20:30 入浴	
21:00 ふりかえり	
22:00 就寝	

4)事業展開

① ネイチャーゲーム



開会式後、参加者がお互いに知り合いつつ、施設周辺の自然で楽しく遊ぶため、奥村講師にネイチャーゲームを実施いただきました。落ち葉でじゃんけんをしたり、ピンクでハートの自然物を探したり、子供たちは夢中になって取り組んでいました。

③ 木エクラフト



諫早市内にあるタカシマホールディングス(株)様に提供いただいた端材を用いて、自由にクラフト活動を実施しました。施設周辺にある木の実等も活用し、一人一人個性溢れる作品が出来上がりました。

⑤ きこり体験②



のこぎりを使って、自分の好きなサイズに木を切る体験をしました。太めの木にチャレンジしたり、皮をむいてツルツルにしたり、頑張りとお土産を作っていました。

② 森林ウォークラリー



コマ図を見て正しい道を見つけ、ゴール地点まで戻ってくるウォークラリー(新コースバージョン)を実施しました。施設からほど近い「九電みらいの森」という植樹したばかりの場所をコース内に配置し、観察することで自然に目を向ける機会となりました。

④ きこり体験①



蓑田講師による伐倒の様子を見学しました。大きく育ったヒノキが倒れる音、振動は大変迫力があり、その様子を真剣なまなざしで見つめていました。また、昔と現在の林業従事者の服装や道具の違いなども、現物を見ながら楽しく学びました。

⑥ ふりかえり・終了証書授与



2日間の修了証書を渡し、今後森林マイスターの卵として、どのようなことを頑張っていくかを全員の前で発表しました。今回の学びをさらに深めることを期待しています。

5) 評価

① アンケート結果(事業全体に対する満足度)

満足	やや満足	やや不満	不満
90%	10%	0%	0%

② 参加者の声

- ・ ネイチャーゲームでは、自然の中にいろいろな物が隠れているんだなと思いました。
- ・ 森林ウォークラリーで、友達と地図を見てクリアを目指すことで、絆ができたと思います。
- ・ ウォークラリーで見た景色は達成感があり、普通の美しい景色とは違う嬉しさがありました。森林の空気は、普通の空気の何倍もおいしかったです。
- ・ 木工クラフトでは、自分で考え材料を選んで作ることが楽しかったです。
- ・ 木工クラフトで、家に使う木の端っこなどは大きい木がたくさんあり、それを捨てていると思うともったいないなと感じました。
- ・ きこり体験では、倒す方向や逃げる方向などをしっかり考えて木を切っていることや、家の柱になるまでにこんなに時間がかかっていることにびっくりしました。
- ・ きこり体験がとても面白かったです。そのおかげで、木のことをもっと知りたくなりました。

6) 成果と課題

① 成果

- ・ 長崎県緑化推進協会、長崎県森林ボランティア支援センターとの連携により、講師を紹介いただき、職員だけでは実施できないプログラムを実施することができた。
- ・ タカシマホールディングス(株)の協力により、クラフト活動で使用する材料(端材)を提供いただくことができた。また、クラフト活動の前に、その材料が端材であることを子供たちに説明することにより、子供たちが無駄なく材料を使用している様子が伺えた。
- ・ 安全管理を徹底し、チェーンソーで伐倒する様子を見学することで、その迫力に驚いている子供が多くいた。植樹から伐倒、加工という森林サイクルの一部を、体験を通して理解することができた。

② 課題

- ・ ネイチャーゲームや木工クラフトなど、施設の利用団体が実施できるプログラムとすべく、関係団体と調整を進めたい。
- ・ 森林ウォークラリーは、新しいコースを設定して実施した。地図の微修正や問題の設定など、修正が必要な点が見られたため、今後修正を加え利用団体に提供できるよう資料を整理したい。



目標4 質の高い教育をみんなに

五感を使って、自然と触れ合う体験を通して、自然の持つ様々な表情を楽しみ、普段気づかない発見や自然とのつながりに気づく。



目標13 気候変動に具体的な対策を

森林を守り、正しく手入れしていくために、どのような取り組みをしているか、私たちの生活の中でどのようなことができるかを考える。

生活自立支援キャンプ I (児童養護施設の子ども支援事業)

～わくわくチャレンジキャンプ(佐賀)～

〔主催〕国立諫早青少年自然の家

〔協力〕長崎バイオパーク

〔期日〕令和4年8月10日(水)～12日(金)

〔活動場所〕国立諫早青少年自然の家、長崎バイオパーク

〔参加者〕社会福祉法人済昭園 32名(児童・生徒21名、職員11名)

〔講師〕末竹 純(長崎バイオパーク飼育展示課 学芸員)

〔担当職員〕小野 栄策、宇都 志津佳、稲原 涼馬

1)趣旨

児童養護施設の子供たちが、自然体験や生活体験を通じて、自尊感情を高めるとともに、体力の向上及び基本的な生活習慣の定着を図る。

2)目標

- ①自然体験や生活体験の中で児童・生徒ができた活動や、自分ができることを見つけることができる。
- ②自然の中で体を動かすことで体力の向上を図る。
- ③早寝早起き朝ごはんなど、規則正しい生活を送ることができる。

3)プログラム

1日目	2日目	3日目
8:00 集合(済昭園)	6:30 起床	6:30 起床
8:30 出発(バス移動)	7:00 朝食(レストラン)	清掃・荷物整理
仲間づくりゲーム	9:00 沢登り 【写真⑥】	8:00 朝食(レストラン)
【写真①】	12:00 昼食(弁当)	9:00 出発
12:00 昼食(レストラン)	14:00 洗濯	(バス移動)
13:00 ハイキング【写真②】	リラックスタイム	10:30 バイオパーク到着
14:00 葉っぱのスタンプ	15:30 夕食(野外炊事)	特別プログラム
【写真③】	【写真⑦】	【写真⑨】
15:30 夕食(野外炊事)	19:00 キャンプファイヤー	12:30 昼食(弁当)
【写真④】	花火 【写真⑧】	自由散策
19:00 ナイトハイク	20:00 入浴	14:30 バイオパーク出発
【写真⑤】	一日の振り返り	(バス移動)
20:00 入浴	【写真⑩】	16:00 解散式(済昭園)
一日の振り返り	21:30 就寝	
21:30 就寝		

4)事業展開

① 仲間づくりゲーム



施設の宿舎がそれぞれ違うため、子供達同士の交流がありません。そこで、簡単なゲームを行い、親睦を図りました。最初は、なかなかグループの輪に入れない子もいましたが、時間が経過するにつれて会話が生まれるようになってきました。

③ 葉っぱのスタンプ



森で集めてきた葉っぱや花にペインティングして、世界に一つだけのトートバッグを作りました。色や模様、葉っぱの配置を考えながら意欲的に思い出の作品を作っていました。完成したバッグは、さっそくこの後の活動に活用する姿が見られました。

⑤ ナイトハイク



夜道を懐中電灯1つで歩く経験をしました。きれいな星空も見ることができ、とても感動しました。明かりのない中で活動するたいへんさを感じ取っていました。

② ハイキング



森を歩きながら珍しい昆虫や草花を探しました。集めた葉っぱはこの後のクラフトに使用しました。最後に、アスレチックで遊びました。年上の子供達が遊具の使い方を教える姿はとても頼もしかったです。

④ 野外炊事(カレー作り)



カレー作りを行いました。グループで話し合っで役割分担を行い、火起こしなど失敗しても諦めることなく頑張る姿が見られました。年少の子供達も、野菜を切ったり洗ったりして、安全に気を付けながら活躍の場を持つことができました。

⑥ 沢登り



高学年、低学年に分かれて沢登りに出かけました。前回のキャンプでは、恐怖心からか水に入れない子供も多かったのですが、水に浮いたり、滝に打たれたりして楽しむ姿に成長を感じました。終了後、濡れた洋服を洗濯し、干してたたむまでを経験できました。

⑦ 野外炊事(バーベキュー)



カレー作りの経験を生かして、まき割や火起こし、調理までを行うことができました。

⑧ キャンプファイヤー



火を囲んで、ゲームや花火をしました。火を見て心を落ち着かせ、キャンプを振り返る良い機会となりました。

⑨ 長崎バイオパーク



はじめて動物園を訪れた子供達も多く、身近でエサを与える体験に感動していました。決まったお小遣いで、お土産を購入する経験も効果的でした。

⑩ 振り返り



活動ごとに班で、振り返りを行いました。出た意見は、模造紙にまとめ施設に掲示してもらうようにしました。回を重ねるごとに、たくさんの意見が出るようになりました。

5) 評価

① アンケート結果(事業全体に対する満足度)

満足	やや満足	やや不満	不満
94%	6%	0%	0%

② 参加者の声

- ・班で協力して1つのことをなすとげる達成感を味わうことができました。
- ・普段はあまり交流しない子供たちが、楽しそうに一緒に活動出来てよかったです。
- ・沢登り、動物との触れ合い、野外調理などはじめての経験ができて、とても楽しかったです。

6) 成果と課題

① 成果

- ・施設では見ることのできない、子供達自身が主体となって頑張る姿がたくさん見られた。昨年度から継続してキャンプを行ったことで、子供達の成長を感じることができた。
- ・プログラム内容に余裕を持たせることによって、十分な活動時間を確保し、子供達同士や施設職員、スタッフとのかかわりがたくさん生まれた。

② 課題

- ・施設職員との打ち合わせを十分に行い、子供との関わり方やプログラム内容について共通理解を図る。一緒にプログラムを考えていきたい。



目標2 飢餓をゼロに

野外炊事を通して、安全な調理の仕方や楽しい会食の雰囲気づくりを学びます。



目標4 質の高い教育をみんなに

動物と触れ合う体験を通して、人と動物が共生する社会を目指します。

生活自立支援キャンプⅡ(ひとり親家庭の子ども支援事業)
～わくわくチャレンジキャンプ(長崎)～

[主催]国立諫早青少年自然の家

[協力]長崎バイオパーク 諫早市鳥獣加工販売組合

[期日]令和4年7月16日(土)～18日(月・祝)

[活動場所]国立諫早青少年自然の家、長崎バイオパーク

[参加者]就学前～高校生、父親、母親 41名(男性21名、女性20名)

[講師]末竹 純(長崎バイオパーク飼育展示課 学芸員)

金谷 春(諫早市鳥獣処理加工販売組合) 陣野 真理(トミーズ&ダイスカフェ代表)

[担当職員]小野 栄策、寺中 拓也、宇都 志津佳、稲原 涼馬

1)趣旨

ひとり親家庭の子供たちが共同宿泊生活体験を通して、「早寝早起き朝ごはん」や「洗濯・調理」といった基本的習慣の定着を図る。また、自然の家でしかできない体験(沢登り・キャンプファイヤー)を通して、自然体験活動の楽しさや達成感を味わう。さらに、長崎バイオパークを訪れ、動物と触れ合う体験を通して、自然の大きな仕組みや生命の大切さを感じ取る。

2)目標

- ①自分のことは自分でする。
- ②とにかく楽しむ。
- ③動物と触れ合う。

3)プログラム

1日目	2日目	3日目
送迎	6:30 起床	6:30 起床
10:00 開会式	7:00 朝食(レストラン)	7:00 朝食(レストラン)
10:30 アイスブレイク 仲間づくりゲーム	8:00 移動(バイオパークへ)	8:00 清掃・片付け
12:00 昼食(レストラン)	9:30 動物園散策【写真④】	9:00 ジビエ料理とは 【写真⑦】
13:00 沢登り【写真①】	12:00 昼食(動物園内レストラン)	9:30 ジビエバーガーを つくろう 【写真⑧】
17:00 夕食(レストラン)	13:00 動物園特別プログラム 【写真⑤】	12:00 美食、片付け
18:00 洗濯【写真②】 リラックスタイム	15:00 移動(自然の家へ)	13:00 全体の振り返り
19:00 入浴、就寝準備	17:00 夕食(レストラン)	13:30 閉会式
20:00 一日の振り返り 【写真③】	19:00 キャンプファイヤー 【写真⑥】	送迎
21:00 就寝	20:00 入浴、就寝準備	
	21:00 一日の振り返り	
	21:30 就寝	

4)事業展開

① 沢登り



前日が大雨だったため、比較的流れがゆるやかで安全なコースに変更して沢登りを行いました。水量が多かったため、滝を登ることに苦労しましたが、みんなで協力して、無事全員ゴールすることができました。スリルを味わえて楽しかったと振り返りで感想を述べていました。

② 洗濯



親に頼らない生活習慣の確立のために、沢活動で汚れた洋服や靴を自分で手洗いしました。洗った衣類は部屋に干して、バッグにしまうまで、経験しました。洗濯機に慣れた子供達にとって、たいへんな仕事だったとは思いますが、自分のことは自分でする意識を高めるためにも、貴重な経験となりました。

③ 活動の振り返り



一日の終わりに班で活動の振り返りを行いました。よかったことを出し合うことで、次の活動の改善点になりました。会を重ねるごとに話し合いがスムーズになってきました。

④ バイオパーク(えさやり体験)



はじめて動物園を訪れた子も多く、最初は動物が怖いと感じていましたが、動物と触れ合ったり、エサをあげたりすることで、動物との距離が縮まってきたようでした。

⑤ バイオパーク(キーホルダーづくり)



キャンプの思い出として、キーホルダー作りをしました。この活動で使用する道具や材料は、すべて動物園から出た廃材を再利用したものです。ビーバーの削った木やフラミンゴの羽、ヤマアラシの針毛が工作に役立ち、SDGsの視点からも効果的でした。

⑥ キャンプファイヤー



キャンプファイヤーを行いました。ボランティアの学生達が会の進行やレクリエーションを行ってくれました。火を見つめながら楽しいひと時を過ごすとともに、これまでの活動を静かに振り返り、明日の班行動につなげることができました。

⑦ ジビエについての話



日頃から、捕獲された野生の鳥獣を食材として加工されている講師の金谷さんに、ジビエについて話をうかがいました。子供達が興味を持てるように、クイズ形式でイノシシの生態について説明してもらいました。自然の家でも見かけることのできるイノシシですが、怖いというイメージから少し身近な存在としてとらえることができました。

⑧ ジビエバーガーづくり



ハンバーガーショップを経営されている講師の陣野さんから、ハンバーガーの作り方を教えていただきました。パンやハンバーガーを薪で焼くことはとても難しく、火の調整が難しかったです。美味しいハンバーガーに大満足でした。ハンバーグの中に加えられた、いのししの肉を食することで、命をいただく“食育”につなげることができました。

5) 評価

① アンケート結果(事業全体に対する満足度)

満足	やや満足	やや不満	不満
100%	0%	0%	0%

② 参加者の声

- ・親一人で、動物園に連れて行くことがなかなかできないので、とてもありがたく楽しむことができました。
- ・最初は、動物に触れる勇気がなかったけど、キャンプをして、動物にエサを与える勇気を持ってました。

6) 成果と課題

① 成果

- ・連携団体が増えて、動物との関りをテーマに効果的にプログラムを展開できた。
- ・振り返りの時間を効果的に行うことで、キャンプを通して、表現する力や自分たちで話し合う力が高まってきた。

② 課題

- ・夏季の暑さ対策を行う必要がある。
- ・活動を仕組みすぎて、ゆとりのないプログラムになってしまった。結果、時間に追われる指導になってしまった。



目標2 飢餓をゼロ

ジビエ料理を体験することで、命をいただくことの尊さを学びます。



目標4 質の高い教育をみんなに

動物と触れ合う体験を通して、人と動物が共生する社会を目指します。

不登校・引きこもり等の課題を抱える青少年支援事業 ～諫早自然の家に来てみんなね！（こども医療福祉センター連携事業）～

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家

〔期日〕 令和4年10月31日（月）

〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家及びその周辺

〔参加者〕 こども医療福祉センターに入院する中学生15名（男子8名、女子7名）

〔担当職員〕 葛島 隆文

1) 趣旨

自然の家での様々な体験活動を通して、不登校、引きこもりなどの課題を抱える青少年に自然体験活動の楽しさや達成感を感じさせ、自己肯定感や自己有用感を高める。また、他者との交流や自然の家での規則正しい生活を通して、基本的な生活習慣づくりのきっかけとする。

2) プログラム

	9:20	10:00	10:30	11:30	12:30	13:00	14:30	15:00	15:30		
10/31 (土)	マイクロバス 迎え	受付	開講式	ハイキング 「往路」 (里山コース)	昼食 弁当	ハイキング 「復路」 (里山コース) ※バス利用	野外炊事 「タラッキー クッキー」	シ エ ア リ ン グ	閉 講 式	マイクロバス 送り	解 散

3) 活動の様子（※病院側の意向により、写真の掲載なし）

【開講式、アイスブレイク】

参加者の安心感が高まるよう、屋内で円になり、スタッフら全員の顔が見えるようにして会を始めた。1日のねらいを全員で共有し、日程説明後にアイスブレイクを行った。アイスブレイクでは、ひらがなカードを使用したアクティビティーを実施し、個々の考えを表出しやすいように注意して活動を進めた。医療スタッフも積極的にアイスブレイクに参加することで子ども達は全員活動に参加でき、発声にてコミュニケーションをとる場面も多く見られた。

【ハイキング】

全員が九電みらいの森入り口ロータリーまで歩くことができた。途中、地面が荒れている場所もあり、足の疲れを訴える子どももいたが、全員で声を掛け合いながら歩いた。木々や草花の植生に興味がある子どもが多く、質問があった場合は、全体で一旦止まってグーグルレンズを使用して説明した。

【昼食・魚の観察】

河川敷にマイクロバスで移動し、昼食を食べながら川辺での散策を行った。ペットボトルで作ったわなで魚を捕り、観察した。スタッフより捕れた魚の説明を行い、知識を増やすことができた。水の冷たさを心地よく感じたり、深呼吸をして川辺での空気や匂いを感じ取ったりする様子が見られた。

【野外炊事】

ピザ窯を使って、クッキー作りにチャレンジした。2班に分かれ、役割を分担しながら作業に取り組んだ。生地の感触が苦手な子どももいたが、型作りになると参加できていた。苦手な部分もフォローしながら作業に取り組むことができた。

【シェアリング】

2班に分かれて、焚火を囲んで、今日感じたこと、その場面、5感のどれかを発表した。言葉で自分の思いを伝えることが苦手な子どもが多かったが、各グループ全員が発言し、盛り上がっていた。

4) 評価

① アンケート結果（事業全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
70%	30%	0%	0%

② 参加者の声

- ・グループで1つの言葉ができた時、うれしかった。
- ・楽しみながらハイキングをすることができた。
- ・色々な草花や自然を感じることで良かった。
- ・きれいな景色を見ることができた。

5) 成果と課題

① 成果

こども医療福祉センター職員の方から、「今回のように自然体験をできる機会は貴重だ」との意見があり、参加者のアンケートでは、「心身のリラックスのためにもまた自然の家に来たい」との回答があった。これは、本事業の大きな成果の一つと考えた。来年度は、研修支援として年間2回の実施を予定する。外に出ることで心身が和らぎ、笑顔が多い一日を作ることができた。適度な運動とコミュニケーションが一つの要因である。

子ども達の翌日の疲れが心配であったが、全員が翌日登校しており、自然の中で十分にリラックスできたと考えられる。

② 課題

今年度と同様にスタッフを配置することは難しい。自然体験の機会の実施時期や頻度を検討していく必要がある。参加者に近い年齢層のスタッフの必要性が感じられるため、今後は大学生などより多くの若い法人ボランティアが事業運営に係わるような体制を整えていく必要がある。



目標4 質の高い教育をみんなに

自然体験活動を通して、リラクゼーションを図り、今後の QOL 向上のきっかけと



目標16 平和と公平をすべての人に

個人の意思決定を重んじ、様々な実態に応じて、学ぶ機会を提供す

不登校・引きこもり等の課題を抱える青少年支援事業

～諫早自然の家にてみんなね！～

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家

〔期日〕 参加者の希望によって調整する

〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家及びその周辺

〔参加者〕 参加者（諫早市内中学校1年生女子及びその母親）

〔担当職員〕 貞方 貴衣、葛島 隆文、上戸 正仁

1) 趣旨

自然の家での様々な体験活動を通して、不登校、引きこもりなどの課題を抱える青少年に自然体験活動の楽しさや達成感を感じさせ、自己肯定感や自己有用感を高める。また、他者との交流や自然の家での規則正しい生活を通して、基本的な生活習慣づくりのきっかけとする。

2) プログラム

日付	内容
5月3日（火）	焼き板
6月25日（土）	紙すき
8月2日（火）	金泉寺ハイキング
9月3日（土）	バウムクーヘン作り
10月28日（金）	星空観察(コスモス花宇宙館)
12月26日（月）	ピザ窯を使ったお菓子作り
2月11日（土）	焚火
3月21日（火）	ピザ窯を使ったパン作り

3) 活動の様子（※本人及び保護者の意向により、写真の掲載なし）

5月3日（火） 【焼き板】

焼き板を作るクラフト活動を実施した。活動場所（ピロティ）には他家族も利用していたが、同じ空間での活動は抵抗なく実施できた。

6月25日（土） 【紙すき】

活動は集中して取り組むことができた。また、保護者との面談も実施することができた。

8月2日（火） 【金泉寺ハイキング】

所外へ出での活動となった。1時間ほどのハイキングで体力的に疲れた様子もあったが、ちょうど花がきれいな時期であり、植物の観察もすることができた。

9月3日（土） 【バウムクーヘン作り】

作業工程が多いが、親子で協力して作る事ができた。食事の際は職員も交えて懇談しながら楽しい時間を過ごすことができた。

10月28日（金） 【星空観察(コスモス花宇宙館)】

学校が終わった夜の時間に来所していただき、所外のコスモス花宇宙館へ赴いた。星空の

解説もしていただきながら観察することができた。

12月26日(月) 【ピザ窯を使ったお菓子作り】

寒い中、手こずりながらクッキー作りを行い、食べることができた。

2月11日(火)【焚火】

焚き付けに使う枯葉や枝を拾い、マッチを使って火おこしをした。すべて自分の力だけで試行錯誤しながら火付けをすることができた。

3月21日(火)【ピザ窯を使ったパン作り】

まとまりにくい生地を一生懸命こね、長い時間をかけ、パンが焼けた際は、みんなで喜んでおいしく食べることができた。

4) 評価

① アンケート結果(事業全体に対する満足度)

満足	やや満足	やや不満	不満
100%	0%	0%	0%

② 参加者の声

- ・大キツネノカミソリ(金泉寺ハイキングの際にみた花) がとてもきれいだった。
- ・土星が写真で見たままの様子で見ることができ感激した。
- ・寒さで思うようにクッキーが作れず残念だったが、火のそばで焚火体験ができ楽しかった。
- ・自然の家は大きな存在です。ありがとうございます。(保護者)

5) 成果と課題

① 成果

- ・昨年度に引き続き、月に一度のペースで活動に来ることができた。
- ・限られた職員だけではなく、何人かの職員の対応により、参加者がより安心して活動に取り組める体制を作ることができた。
- ・男性職員とのかかわりが少しずつできてきている。
- ・屋内での活動だけではなく、屋外の活動も取り組みながら、自分から話をする様子もうかがえるようになった。
- ・徐々に学校にも通う様子がうかがえ、考査や修学旅行へ参加することができたという報告があった。

② 課題

- ・参加者の状況を把握し意向に沿った支援について、職員体制も含め今後さらに強化する必要がある。
- ・連携機関との関係や情報交換を通して、参加者の幅を広げていくことが重要である。
- ・専門的な知識が必要な場面も生じるため、職員間の連携を強化し、対応にあたっていきたい。



目標4 質の高い教育をみんなに

自然体験活動を通して、リラクゼーションを図り、今後のQOL向上のきっかけとする。



目標16 平和と公平をすべての人に

個人の意思決定を重んじ、様々な実態に応じて、学ぶ機会を提供する。

English Day Camp

～自然の中で英語を楽しもう！～

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家 （諫早市教育委員会委託事業）

〔期日〕 令和4年10月1日（土）

〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家

〔参加者〕 諫早市内の小学3・4年生 児童45名（男子16名、女子29名）

〔担当職員〕 西田 尚由

〔外部講師等〕 諫早市教育委員会学校教育課職員（6名）

諫早市教育委員会ALT（9名）

鎮西学院大学学生サポーター（5名）

1) 趣旨

自然の中で英語を聞いたり話したり人に伝える活動や外国人との交流を通して、英語でのコミュニケーションを図ることの楽しさを感じるにより、コミュニケーションを図る素地となる資質を育てる。

2) 目標

- ①英語をたくさん使って、英語でのコミュニケーションの楽しさを感じる。
- ②キーワード（色・形・数字）を積極的に使おうとする。

3) プログラム

10月1日（土）	
9:00	自然の家到着・受付
9:20	はじまりの会【写真①】 ・ハローソング、スタッフ自己紹介等
9:45	英語で友だちになろう！ ・英語でじゃんけん自己紹介ゲーム【写真②】 ・“色”、“形”を使ったゲーム【写真③④】
10:30	英語で楽しく森のビンゴ（フィールドビンゴ） ・野外で“色”、“形”を探すゲーム【写真⑤】
12:00	昼食（レストラン）
13:00	森のスタンプ（葉っぱのスタンプ）【写真⑥】 ・葉っぱに絵の具を塗って、オリジナルエコバッグを作る。
14:30	おわりの会 ・振り返り、アンケート記入 ・グッバイソング
15:00	自然の家出発

4) 事業展開

① はじまりの会（ハローソング）



事業の最初と最後にALTの先生の伴奏による“ハローソング”、“グッバイソング”で、みんなで楽しく英語の歌を歌いました。緊張した中で活動が始まりましたが、歌うことで、心もほぐれ、笑顔で活動を進めることができました。

② 英語でじゃんけん自己紹介ゲーム



英語でじゃんけんをして、勝った方から自己紹介をしました。簡単な英語を使いながら、初めて出会った児童同士で楽しくコミュニケーションをしました。

③ “色”を使ったゲーム



9種類の“色”についての英単語を学び、表現しました。じゃんけんゲーム等も織り交ぜながら、繰り返し何度も発声することで、単語を覚え、活用できるようになりました。

④ “形”を使ったゲーム



9種類の“形”についての英単語を学び、ロープを用いて形を表現しました。英語で指示された形について、班の仲間と協力しながらロープを使って、指示された形を作りました。

⑤ 森のビンゴ



班ごとに森を散策しながら葉っぱの色や木の実の形等を英語で表現しました。途中、午後のクラフトで使う葉っぱや木の枝、木の実等を収集しました。

⑥ 森のスタンプ



キャンプの思い出として、オリジナルエコバックを作成しました。森で採集した葉っぱ等に絵の具を塗り、エコバッグに押し付け、模様を付けました。個性あふれる作品が多く完成しました。

5) 評価

① アンケート結果（事業全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
77%	21%	0%	2%

② 参加者の声

- ・色々な英語を覚えたり、形、色、数の英語を言えてよかった。
- ・森で木の実をひろいながら、先生が決めた色や形を見つけるゲームが楽しかった。
- ・スタンプでオリジナルのエコバックを作って楽しかった。
- ・ALTの先生たちとたくさん英語でお話できた。
- ・英語で友だちとたくさん話して、友だちをたくさんつくることができた。
- ・英語をこんなに楽しく学べることを知った。

6) 成果と課題

① 成果

- ・打ち合わせからALTに参加していただいたことで、ALTとも活動内容の共有ができ、英語を活用する部分を任せることで、正しい英語を活用しながら活動することができた。
- ・始めて出会った参加者同士でもお互いに英語でコミュニケーションを取り合うことができ、最後まで楽しく活動できた。
- ・活動の最初にALTによるデモンストレーションを行ったことで、参加者も活動がわかりやすく、安心感を持って活動に取り組むことができた。
- ・グループ数(9G)に合わせて“色”を9色紹介したが、量的にちょうどよかった。
- ・“色”と“形”の2つにポイントを絞り意識させながら活動することで、参加者も目的を理解して活動することができた。

② 課題

- ・活動の始めの方では、他の参加者と上手に関わるできない参加者もいたので、最初は小グループから始めて、段階的に人数を増やしていくとよかった。
- ・「森のビンゴ」では、実際にビンゴを作らせると、参加者ももっと意欲的に取り組めた。
- ・「森のスタンプ」では、みんな楽しそうに活動できていたが、作業に意識が向いてしまい、英語の活用が少なくなってしまう。
- ・1つ1つのプログラムの活動時間が長く、ゆったりとしていたので、もう少し短く区切って活動してもよかった。



目標4 質の高い教育をみんなに

自然体験活動を通して、リラクゼーションを図り、今後の QOL 向上のきっかけとする。



目標16 平和と公正をすべての人に

外国人や同世代の人たちと英語で交流することでお互いの理解を深めます。

グループをチームに育てるプログラム研修会 ～『個』を引き出すアプローチ～

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家

〔後援〕 長崎県バスケットボール協会

〔期日〕 令和4年6月25日（土）10:00 ～ 16:00 日帰り

〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家 第1学習室

〔参加者〕 スポーツ指導に関わっている方、子供の指導に関わっている方
6名（男性4名、女性2名）

〔講師〕 後藤 慶太（国立諫早青少年自然の家次長 元長崎西高等学校男子バスケットボール部監督）

〔担当職員〕 東島 憲之、西田 尚由、稲原 諒馬

1) 趣旨

スポーツの指導においては、子供の将来を見据えたコーチングスキルを身につけたスポーツ指導者の育成が必要である。そこで、スポーツ指導者を対象に、体験教育・アドベンチャー教育の基本となる手法や理論を体験的に学び、子供の可能性を引き出す指導の在り方や関わり方を学ぶ事業を実施する。

2) 目標

- ① 発言しやすいチーム作りのために、諫早コミュニケーションアドベンチャープログラム（以下 I-CAP）で実践している手法（アイスブレイク・ディインヒビタイザ）を体験し、スポーツ指導時に活かせることを考える。
- ② 「コンテンツとプロセス」について理解するために、I-CAP で実践している手法（イニシアティブ）を体験し、スポーツ指導時に活かせることを考える。
- ③ 個を引き出すコーチングについて、実践者の事例を聞き、考え方を学ぶ。
- ④ 「チャレンジ」（個の成長）について理解するために、I-CAP で実践している手法（イニシアティブゲーム）を体験し、スポーツ指導時に活かせることを考える。

3) プログラム

1日目	
10:00	開講式
10:10	セッション1 「発言しやすいチーム作りには、何が必要？」【写真①】
11:10	セッション2 「チームチャレンジでは、何が起こるのか？」
12:10	昼食
13:10	セッション3 「個を引き出すコーチングとは？」 講師：後藤 慶太【写真②】
13:40	セッション4 「個を引き出すアプローチについて考えよう」【写真③】
15:20	セッション5 「ふりかえり」

4) 事業展開



①アイスブレイク



②講義
「個を引き出すコーチング」



③カプラを使った個人と
グループのチャレンジ

5) 評価

① アンケート結果（事業全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
84%	16%	0%	0%

② 参加者の声

- ・チームと個人の視点を実際の体験から考えることができ、実際の指導をイメージできた。
- ・目指したいグループ像や指導方法について、参加者間でいろいろな意見交換ができた。
- ・新しい視点で自分の専門種目について考えることができた。

6) 成果と課題

① 成果

- ・各セッションの目標を明確にし、活動数と講義内容を前年度より絞ったことにより、体験から学ぶことを重視できた。
- ・種目や年齢がバラバラの参加者の構成となり、グループでの意見交換が有効だった。

② 課題

- ・参加対象を教員に限定せず、初めてスポーツ指導者としたが、関係団体の年間計画等の情報収集が不十分だったため、試合や講習日程と重なり参加者が少なかった。
- ・参加者情報について、種目以外に対象年齢や経験年数、指導レベル等の情報も必要だった。
- ・ふりかえりの視点、参加者に何をもち帰ってもらうかのゴール設定が不十分だった。



目標4 質の高い教育をみんなに

自然体験活動を通して、リラクゼーションを図り、今後の QOL 向上のきっかけとする。



目標4 質の高い教育をみんなに

自然体験活動を通して、リラクゼーションを図り、今後の QOL 向上のきっかけとする。

チームマネジメント力向上のための研修会 ～ワクワクするチームをつくるために！～

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家

〔共催〕 長崎県バスケットボール協会

〔期日〕 令和4年11月26日（土）

〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家

〔参加者〕 スポーツ指導に関わっている方、子供の指導に関わっている方 20名（男性17名、女性3名）

〔講師〕 門田 卓史（株式会社 edu-activators 代表取締役）

〔担当職員〕 西田 尚由、寺中 拓也

1) 趣旨

スポーツの指導においては、子供の将来を見据えたコーチングスキルを身につけたスポーツ指導者の育成が必要である。そこで、スポーツ指導者を対象に、体験教育・アドベンチャー教育の基本となる手法や理論を体験的に学び、子供の可能性を引き出す指導の在り方や関わり方を学ぶ事業を実施する。

2) 目標

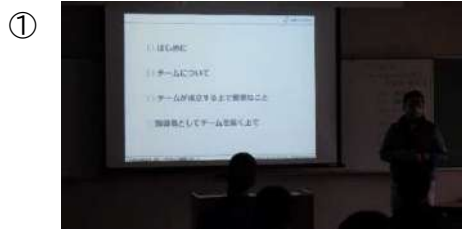
- ① 指導者の考え方や関わり方の重要性に気づき、自分自身も“また学びたい”意欲が高まる。
- ② 技術面以外にチームづくりに大切なポイントやスキルを学ぶ。

3) プログラム

11月26日（土）	
9:30	受付
10:00	開講式 ・ スタッフ自己紹介 ・ 講師紹介 ・ 参加者自己紹介
10:15	講義・演習1【写真①②】 ・ チームの概念 ・ 目的と目標
13:00	講義・演習2【写真③④】 ・ イニシアティブゲーム（ZOOM、RE-ZOOM等）
16:00	振り返り・閉講式

4) 事業展開

講義・演習1



参加者は、講師の門田氏による講義や演習を通して、チームの概念やよりよいチームづくりのための理論的な内容を学び、指導者の考え方がチームに及ぼす影響を実感できた。参加者一人一人が自身のこれまでの指導について確認、振り返りを行い、今後の指導方法について考えるきっかけとなった。

講義・演習2



イニシアティブゲームでは、参加者自身がチームづくりについて疑似体験することで、子供の可能性を引き出す指導の在り方や関わり方を学んだ。参加者は、自身が指導しているチームの現状を把握し、参加者同士で意見交換をすることで、今後の指導について考える機会となった。

5) 評価

(1) アンケート結果（事業全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
100%	0%	0%	0%

(2) 参加者の声

- ・活動を通して、伝えることの重要性を改めて知りました。また、選手同士がコミュニケーションをとりやすいチームを作らなければいけないと感じました。
- ・今回の研修の内容を、自チームの現状に照らし合わせながら考えていくと、自分自身がもっとこのような研修を通して学び、それを反映しながら指導していくことが重要だと思いました。
- ・今までに受けた技術的な研修だけでなく、選手との接し方など、時代の変化とともに選手とのかわり方や指導方法について学ばなければと思いました。
- ・技術指導はYouTubeやDVD等ありますがチームづくりや指導者の形成についてはないのでとても参考になりました。
- ・これまでの自分のチームづくりを言語化、整理することができました。
- ・マネジメントという、人を動かすことの理念や基礎を座学や活動で体験することができ、たいへん良かったです。
- ・チームの規模や実績等の要素に関係なく、指導に携わる人間の一人として、預かる生徒に何かしら響く言葉を届けられる人間になりたい。

6) 成果と課題

(1) 成果

- ・講師と担当職員で連携し、参加者の様子を把握することで、適宜、適切な活動を実施することができた。その結果、参加者の満足度が高く、たいへん有意義な研修会になった。
- ・参加者の多くが“バスケットボールの指導に携わっている”という共通点はあったが、年齢や指導歴は様々な集団だった。それでもお互いにコミュニケーションを取り合い、最後まで、とても良い雰囲気での研修を進めることができた。
- ・多くの参加者が、今後も学び続けたいという意欲を高めることができた。

(2) 課題

- ・今回はバスケットボール協会に協力してもらったこともあり、バスケットボールの指導者に多く参加してもらうことができたが、広報不足で他競技の指導者からの参加者がいなかった。
- ・日帰りでの開催だったため、時間に追われながら忙しいスケジュールだった。もっとじっくりと学んでもらえるような日程で実施できるような工夫が必要である。



目標 4 質の高い教育をみんなに

仲間と協力する活動を通して、安全・安心な学習環境づくりの指導方法を学ぶ。



目標 16 平和と公正をすべての人に

仲間と協力する活動を通して、参加型の意思決定を支援する指導方法を学ぶ。

自然体験活動ボランティア養成研修

〔主催〕国立諫早青少年自然の家

〔期日〕令和4年6月18日(土)～19日(日)

〔活動場所〕国立諫早青少年自然の家

〔参加者〕高校生1名、大学生一般19名 計20名(男性8名、女性12名)

〔講師〕ガールスカウト長崎県連盟 高橋 純子、吉岡 由美子

〔担当職員〕葛島 隆文、貞方 貴衣、稲原 諒馬

1)趣旨

青少年の体験活動事業で活動するボランティアスタッフに求められる基礎的な知識・技術を習得するとともに、ボランティア活動への参加意欲を高める一助とする。

2)目標

「自然の家にまた来て子供たちと一緒に活動したい」と感じてもらうこと。

3)プログラム

1日目		2日目	
10:00	受付、開講式 [写真①]	8:20	<u>【説明】登録などはどうしたらいいの？</u> (青少年教育施設における ボランティア活動② 30分)
10:30	<u>【講義・実習】自然の中に飛び込もう！</u> ①	9:00	<u>【講義】なんで自然体験が大事なの？</u> [写真④] (青少年教育 90分)
12:15	(ボランティア活動の技術 60分) <u>【講義・実習】自然の中に飛び込もう！</u> ②	10:40	<u>【講義】諫早自然の家ってなに？</u> (青少年教育施設の現状と運営 60分)
15:25	[写真②] (ボランティア活動の技術 180分) <u>【講義・実習】応急手当を知ろう①</u>	13:10	<u>【説明】どうやったら活動に参加できるの？</u> (青少年教育施設における ボランティア活動② 30分)
18:15	(自然体験活動の安全管理① 90分) [写真③]	13:50	<u>【講義】活動時の心構えについて</u> [写真⑤]
19:45	<u>【講義・実習】応急手当を知ろう②</u> (自然体験活動の安全管理② 90分) <u>【説明】どんなボランティア活動ができるの？</u>	15:15	(ボランティア活動の意義 90分) 閉講式 [写真⑥]
21:00	(青少年教育施設における ボランティア活動① 60分) 入浴・就寝		

4)事業展開

① 開講



名前を覚えるゲームやじゃんけん等、仲間づくりを行いました。ボランティア経験や学年、性別に関係なく活動することができ、安心して活動に取り組むことができる雰囲気になりました。

③ 応急手当



ガールスカウト連盟より講師を迎え、普通救命講習Ⅰの講義と実技を行いました。胸骨圧迫や人工呼吸など自然体験活動を想定しながら手技を学ぶことができました。

⑤ ふりかえり



しるらないカードを使って研修をふりかえりました。カードを使うことで参加者は意見を述べやすくなり、沢山の発言が聞かれました。

② 野外活動



オリエンテーリングを行いました。フィールドの安全管理を徹底し、全員が無事にゴールすることができました。途中チームに課題を与え解決することでチームの結束力を高めることができました。

④ 講義



自然体験活動の必要性やボランティア活動の現状などについて講義を行いました。班ごとに考えを視覚化して発表することで、意見を共有しながら講義をすすめることができました。

⑥ 閉講



ボランティア活動への参加意欲を再確認し、最後に全員でボランティア登録や活動までの流れを説明し閉講しました。

5) 評価

① アンケート結果

満足	やや満足	やや不満	不満
95%	5%	0%	0%

② 参加者の声(アンケートから一部抜粋)

- ・積極性や協調性などボランティア活動を行ううえで必要なことを学ぶことができた。
- ・体験談からより深くボランティアを知ることができた。
- ・ふりかえりの仕方がとてもユニークでやる気につながった。

6) 成果と課題

① 成果

- ・ふりかえりを多く行ったことで、「学びを共有して次につなげることができる」など、多くの研修において学びについて記載があった。
- ・新規受講者全員がボランティア登録を行うことができ、今後の活動につなげることができた。
- ・長崎純心大学のサークル説明会に参加し、研修の広報を行うことができ、主に大学1年生の参加者を増やすことができた。
- ・普通救命講習Ⅰを実施したことで、研修受講者全員が資格に合格し修了書を交付することができた。

(2) 課題

- ・コロナ感染の恐れがあるため、インターンシップ前2週間は、大学外での活動が制限されキャンセルがあった。
- ・大学の前期テストを心配する声が多く、来年度は1週間前の実施が望ましい。
 - ・普通救命講習Ⅰの実習では、消防署からの講師派遣がコロナ感染拡大防止により実施不可となった。講習を行うにあたり、応急手当普及員相当の資格が必要であり早めに講師を選定していかなければならない。
- ・各大学により研修における参加条件が異なるので、年度当初に確認が必要であった。



目標4 質の高い教育をみんなに
ボランティアの意義を理解し、多くの子供と接するきっかけを作ることができます。



目標16 平和と公正をすべての人に
先輩ボランティアの意思を引継ぎ、自主的に活動を選択することができます。

大学生のためのボランティア活動推進事業
 「自主企画事業支援プロジェクト」
 ～秋分キャンプ まだまだ暑い日を楽しもう！～

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家

〔期日〕 令和4年9月23日(金)～25日(日) 2泊3日

〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家

〔参加者〕 小学4～6年生 計20名 (男性13名、女性7名)

〔担当職員〕 葛島 隆文、貞方 貴衣、稲原 諒馬

1) 趣旨

2泊3日の中で仲間と協力することの大切さ、自然の竹を使い、日常とは違う体験を通して、失敗を恐れず何事にもチャレンジする精神や臨機応変に対応する力を育む。

2) 目標

主体的にクラフト活動に取り組み、資源の有効活用を考えること。

3) プログラム

1日目	2日目	3日目
9月23日(金)	9月24日(土)	9月25日(日)
13:00 受付	6:30 起床・準備・朝食	6:30 起床
13:30 移動	[写真③]	7:00 朝食
14:00 アイスブレイク [写真①]	9:00 そうめん流し準備	8:00 掃除・片付け
15:00 テント設営 [写真②]	12:00 昼食	9:30 テント撤去
16:00 野外炊事(夕食)	13:00 そうめん流し準備	10:30 竹を使ったおもちゃ作り
19:30 シャワー・就寝準備	16:00 そうめん流し [写真④]	12:00 昼食
20:30 振り返り	18:00 たき火	13:00 おもちゃあそび・片付け [写真⑤]
21:00 就寝	19:30 シャワー・就寝準備	14:00 移動
	20:30 振り返り	14:30 振り返り
	21:00 就寝	[写真⑥]
		15:00 解散

4) 事業展開

① アイスブレイク



名前を覚えるゲームやじゃんけん等、仲間づくりを行いました。学年、性別に関係なく活動することができ、安心して活動に取り組むことができる雰囲気ができました。

③ 朝食



朝食作りではガスコンロを使って、魚を焼きました。普段調理をしない子供が多く、どのくらい焼き目をつけると良いか悩む場面も見られましたが、仲間の意見を聞きながら完成できました。

⑤ おもちゃあそび



そうめん流し台の竹を活用しながら、おもちゃを作りました。壊れることもありましたが、何回も補修しながら遊ぶことができました。

② テント設営



テント設営では、班ごとに張りつつ協力して立てることができました。途中張り方がわからなくなっても、班で意見を出し合うことでチームとしての結束力を高めることができました。

④ そうめん流し



竹を半分に切断し、竹を組み合わせて流しそうめん台を作ることができました。初めてそうめん流しをする子供もいましたが、係を交代しながら楽しく食べることができました。

⑥ 振り返り



活動の振り返りでは、こころに残ったことを中心に班で共有しました。最後に全員でボランティアやスタッフと記念写真を撮影しキャンプを終えました。

5) 評価

①アンケート結果

満足	やや満足	やや不満	不満
100%	0%	0%	0%

②参加者の声（アンケートから一部抜粋）

- ・初めて流しそうめんができて良かった。
- ・協力しながらテントを設営したり、自炊したりできた。
- ・竹を切る活動は大変だったが、割れたときはうれしかった。
- ・自然に感謝したいと思った。

6) 成果と課題

①成果

- ・ボランティア同士が1日おきに反省や翌日のスケジュール確認を行ったことで、「見通しをもって進行できる」「意見を共有することで指導に一貫性を持てる」などの意見があった。
- ・新規ボランティア登録を行った学生も今回のキャンプに参加できたことで、次回のキャンプへの意欲を高め、活動につなげることができた。
- ・刃物を使用することが多かったが、安全管理に注意しながら活動を進めることができたため、大きな怪我はなかった。

②課題

- ・参加者が携帯電話を持ち込んで、保護者と連絡を取り合っていた。持ち物について二次案内で詳しく案内が必要である。
- ・夜の就寝を心配する声が多く、眠れない参加者がいた。
- ・発熱者がおり、こまめな検温の必要性を感じた。



目標4 質の高い教育をみんなに

竹を使った体験学習により、試行錯誤を繰り返しながら主体性と実践力を養います。



目標15 陸の豊かさも守ろう

豊富な資源である竹を利用したモノづくりやおもちゃあそび体験を通じて、資源の有効活用について考えます。

5 青少年教育指導者等の養成および資質向上に関する事業

イ ボランティアの養成・研修事業

Ｃ ボランティアによる自主企画事業

大学生のためのボランティア活動推進事業
「自主企画事業支援プロジェクト」
～ドキドキ！わくわく！ 真冬の探検隊～

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家

〔期日〕 令和4年12月17日（土）～18日（日） 1泊2日

〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家

〔参加者〕 小学4～6年生 計19名（男性8名、女性11名）

〔担当職員〕 葛島 隆文、貞方 貴衣、稲原 諒馬

1) 趣旨

新しく出会った仲間と協力して行う自然体験活動を通して、仲間を大切にすることを育む。

2) 目標

友達がいるからできる活動があることを知る。
新しい友達を作るために必要なことを考える。

3) プログラム

12月17日（土）	12月18日（日）
10：00 受付(本館ロビー)[写真①]	6：30 起床
10：30 オープニング[写真②] アイスブレイク[写真③]	7：15 朝のつどい
11：30 昼食（持参）	7：30 朝食（レストラン）
12：00 ベッドメイキング	9：00 オリエンテーリング （昼食 弁当）
13：00 自然ゲーム(竹を使った遊び)	14：00 ふりかえり
14：00 野外炊事（豚汁）[写真④]	14：30 クロージング(スライドショー)
18：15 キャンプファイヤー[写真⑤]	15：00 解散
19：30 ふりかえり	
20：30 入浴	
22：00 就寝	

4) 事業展開

① 受付(本館ロビー)



子ども達にむけて、ウェルカムボードを作成しました。タラッキー(本所マスコットキャラクター)、を入れることで可愛く仕上がりました。

② オープニング



オープニングでは、今回のキャンプにおける目当てを視覚的にわかるようにしました。活動における目当てを確認できたことで、意識付けができ安心して取り組むことができました。

③ アイスブレイク



名前を覚えるゲームやじゃんけん等、仲間づくりを行いました。学年、性別に関係なく活動することができ、子ども達の表情が和らいでいきました。

④ 野外炊事



班ごとに協力して、豚汁を作りました。班の中で、火つけ、調理、食器などの係を決め、誰か一人でもいなかったら夕食ができなかったことを子ども達は話していました。

⑤ キャンプファイヤー



吹雪になり安全を考慮して途中で活動を中止しました。安全管理上リスクが大きいことをボランティア同士で話し合い、活動中止決定ができました。

5) 評価

①アンケート結果

満足	やや満足	やや不満	不満
100%	0%	0%	0%

②参加者の声（アンケートから一部抜粋）

- ・ 班の仲間と一緒に話をすることが楽しかった。
- ・ 時間を意識しながら活動することができた。
- ・ 初めて行う活動がたくさんあったので良かった。
- ・ また自然の家での活動に参加したい。

6) 成果と課題

①成果

- ・ 違う大学の学生が、自分たちでスケジュールを立て、綿密な企画を練りながらキャンプを進めることができた。
- ・ けがなく、最後まで事業を運営することができた。
- ・ 新規にボランティア登録を行った学生も今回のキャンプに参加できたことで、今後ボランティア活動への意欲を高め、指導に自信を持つことができた。
- ・ 悪天候であったが、安全管理に注意しながら無理なく活動を進めることができた。

②課題

- ・ 雪の予報が発表されていた。雨のプログラムの準備はしていたが、雪の中での活動も想定する必要があった。
- ・ 夜の就寝を心配する声が多く、眠れない参加者が数名いた。
- ・ 子供への介入の度合いが多いという反省があり、子供が自分で考えて行動できるように指導をしていく必要がある。



目標4 質の高い教育をみんなに

非日常生活での、自然体験活動により主体性と実践力を養います。



目標16 平和と公正をすべての人に

集団生活や自然体験活動を通じて、仲間の気持ちを考え、安心して活動できる関係を構築します。

事業・管理運営の記録

1. 令和4年度利用実績

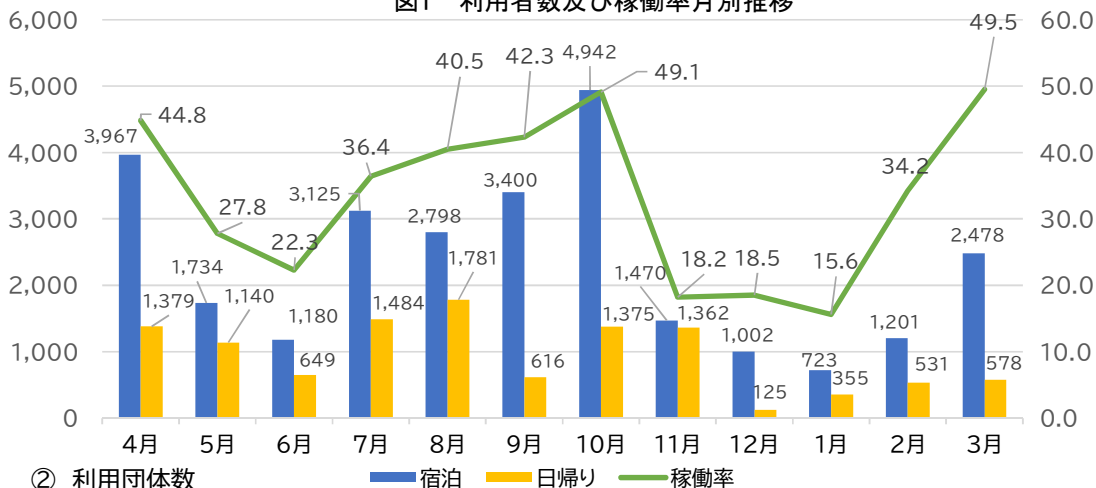
※令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止措置の受入れ停止期間は無し

(1) 利用者数・利用団体数・稼働率

① 利用者数及び稼働率

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
研修支援	宿泊	3,885	1,734	1,140	2,986	2,672	3,290	4,830	1,470	964	605	1,201	2,478	27,255
	日帰り	1,372	1,138	641	1,366	1,778	577	943	1,342	122	355	529	578	10,741
	計	5,257	2,872	1,781	4,352	4,450	3,867	5,773	2,812	1,086	960	1,730	3,056	37,996
教育事業	宿泊	82	0	40	139	126	110	112	0	38	118	0	0	765
	日帰り	7	2	8	118	3	39	432	20	3	0	2	0	634
	計	89	2	48	257	129	149	544	20	41	118	2	0	1,399
総合計	宿泊	3,967	1,734	1,180	3,125	2,798	3,400	4,942	1,470	1,002	723	1,201	2,478	28,020
	日帰り	1,379	1,140	649	1,484	1,781	616	1,375	1,362	125	355	531	578	11,375
	計	5,346	2,874	1,829	4,609	4,579	4,016	6,317	2,832	1,127	1,078	1,732	3,056	39,395
稼働率(%)		44.8	27.8	22.3	36.4	40.5	42.3	49.1	18.2	18.5	15.6	34.2	49.5	34.1

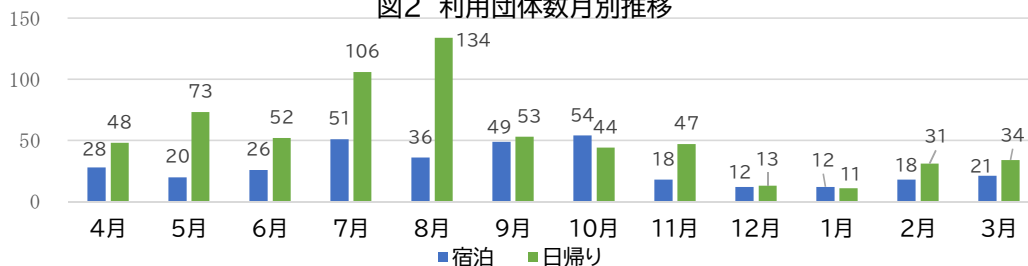
図1 利用者数及び稼働率月別推移



② 利用団体数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
研修支援	宿泊	27	20	25	49	34	47	52	18	11	10	18	21	332
	日帰り	48	72	50	105	133	51	40	46	12	11	30	33	631
	計	75	92	75	154	167	98	92	64	23	21	48	54	963
教育事業	宿泊	1	0	1	2	2	2	2	0	1	2	0	0	13
	日帰り	0	1	2	1	1	2	4	1	1	0	1	1	15
	計	1	1	3	3	3	4	6	1	2	2	1	1	28
総合計	宿泊	28	20	26	51	36	49	54	18	12	12	18	21	345
	日帰り	48	73	52	106	134	53	44	47	13	11	31	34	646
	計	76	93	78	157	170	102	98	65	25	23	49	55	991

図2 利用団体数月別推移

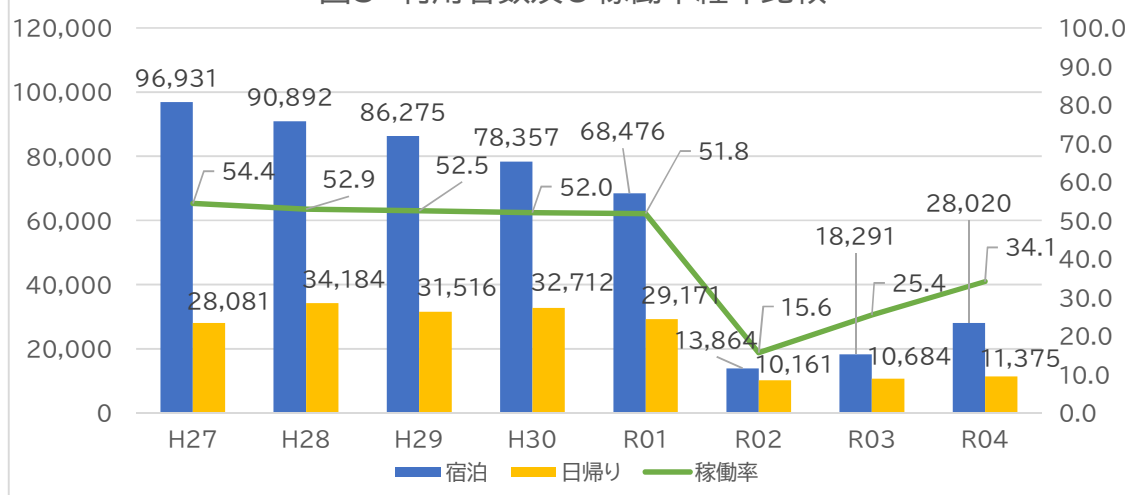


(2)平成27年度から令和4年度までの利用者数・利用団体数・稼働率

① 利用者数及び稼働率

		H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04
研修支援	宿泊	92,643	84,729	79,545	71,904	63,303	12,385	17,367	27,255
	日帰	14,379	15,380	14,960	13,522	13,020	8,526	9,446	10,741
	計	107,022	100,109	94,505	85,426	76,323	20,911	26,813	37,996
教育事業	宿泊	4,288	6,163	6,730	6,453	5,173	1,479	924	765
	日帰	13,702	18,804	16,556	19,190	16,151	1,635	1,238	634
	計	17,990	24,967	23,286	25,643	21,324	3,114	2,162	1,399
総合計	宿泊	96,931	90,892	86,275	78,357	68,476	13,864	18,291	28,020
	日帰	28,081	34,184	31,516	32,712	29,171	10,161	10,684	11,375
	計	125,012	125,076	117,791	111,069	97,647	24,025	28,975	39,395
稼働率(%)		54.4	52.9	52.5	52.0	51.8	15.6	25.4	34.1

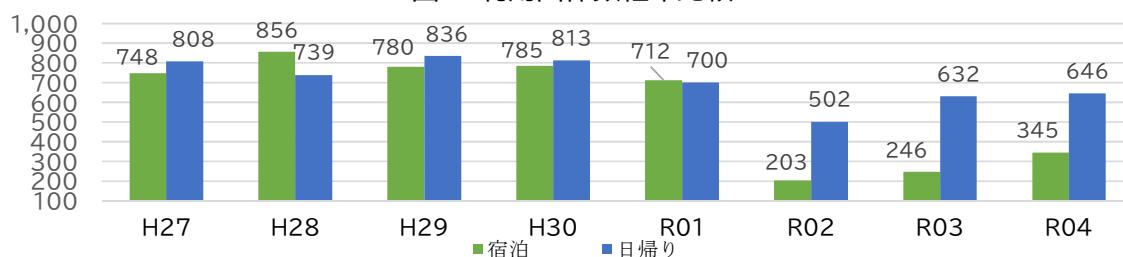
図3 利用者数及び稼働率経年比較



② 利用団体数

		H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R04
研修支援	宿泊	702	762	704	708	656	192	229	332
	日帰	746	674	774	732	633	468	600	631
	計	1,448	1,436	1,478	1,440	1,289	660	829	963
教育事業	宿泊	46	94	76	77	56	11	17	13
	日帰	62	65	62	81	67	34	32	15
	計	108	159	138	158	123	45	49	28
総合計	宿泊	748	856	780	785	712	203	246	345
	日帰	808	739	836	813	700	502	632	646
	計	1,556	1,595	1,616	1,598	1,412	705	878	991

図4 利用団体数経年比較



(3) 団体種別利用状況

団体種別	利用者数		利用団体数	
	数(人)	割合(%)	数(団体)	割合(%)
幼稚園・保育園・こども園	2,091	5.3	66	6.7
小学校	9,885	25.1	224	22.6
中学校	2,480	6.3	37	3.7
高等学校	2,702	6.9	21	2.1
特別支援学校	448	1.1	27	2.7
大学・短大	97	0.2	3	0.3
その他の学校	414	1.0	6	0.6
青少年活動関係団体等	11,490	29.2	253	25.5
教育事業など	1,399	3.6	28	2.8
官公庁・企業	1,086	2.8	41	4.2
家族	495	1.2	94	9.5
その他	6,808	17.3	191	19.3
合 計	39,395	100	991	100

・「その他の学校」とは、専修学校・専門学校、職業訓練校等の団体を区分しています。

・「その他」とは、上記以外の「教育関係施設」、「グループ・サークル」等の団体を区分しています。

図5 団体種別利用者数の割合

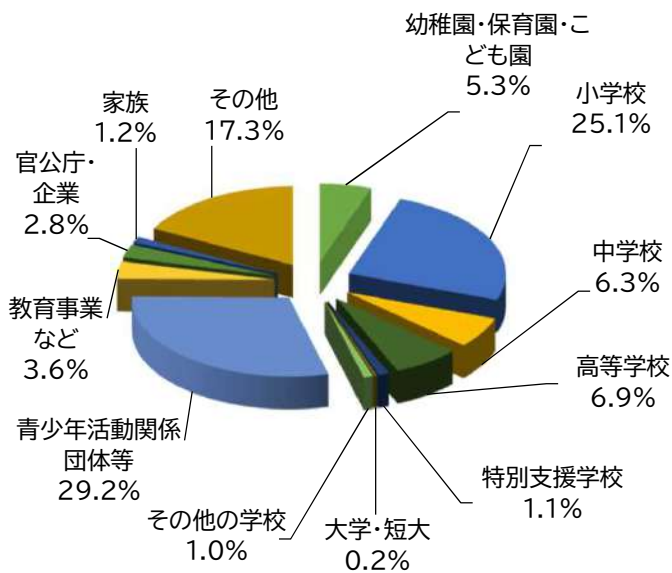
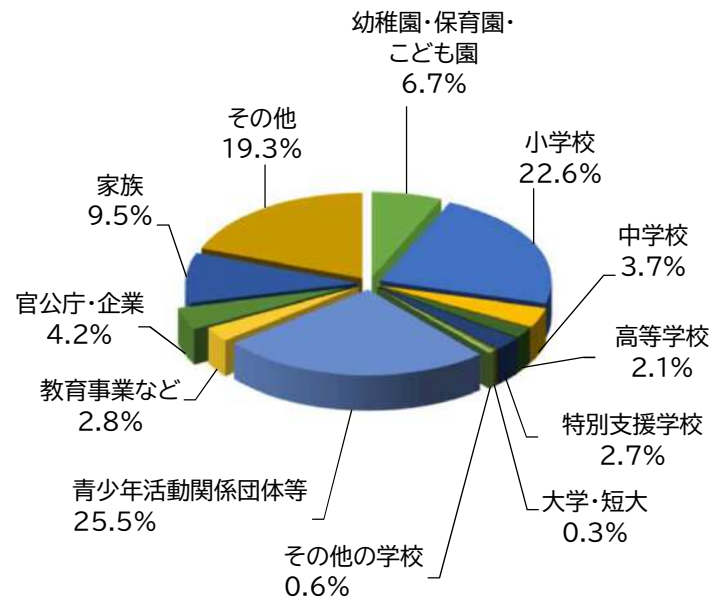


図6 団体種別利用団体数の割合



(4) 県別利用状況

都道府県	利用者数		利用団体数	
	数(人)	割合(%)	数(団体)	割合(%)
長崎県	28,974	78.3	528	83.6
福岡県	5,741	15.5	77	12.2
佐賀県	1,188	3.2	13	2.1
その他	1,123	3.0	13	2.1
合計	37,026	100	631	100

・当所主催の教育事業を除いています。

・各団体が「下見・事前打合せ」で利用した場合を除いています。

図7 県別利用者数の割合

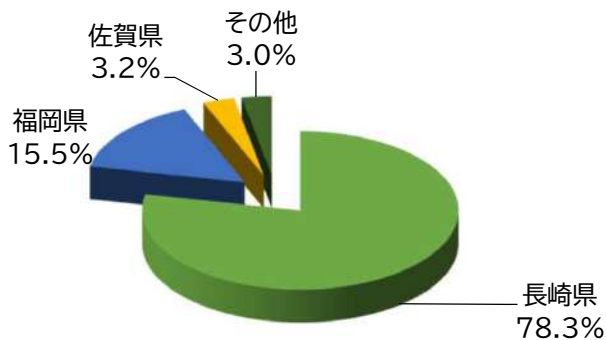
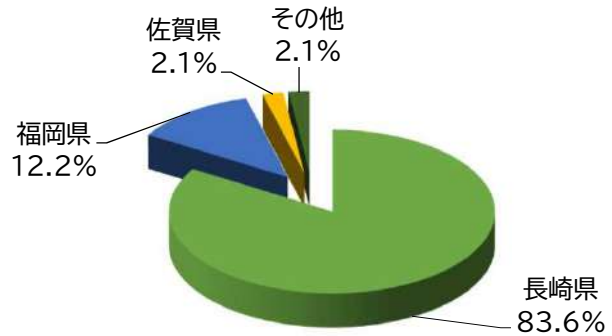


図8 県別利用団体数の割合



(5) 県ごとの団体種別利用実績

		幼・保	小学校	中学校	高等学校	特別支援	大学・	その他	青少年	官公庁	家族	その他	合計
		こども園				学校	短大	の学校	活動団体	企業			
長崎県	利用団体数(団体)	41	61	13	7	10	1	4	153	16	87	135	528
	利用者数(人)	2,007	7,330	2,071	1,349	407	91	410	8,043	1,008	454	5,804	28,974
福岡県	利用団体数(団体)	0	27	1	2	0	0	0	27	12	4	4	77
	利用者数(人)	0	1,905	214	1,316	0	0	0	2,117	46	25	118	5,741
佐賀県	利用団体数(団体)	0	4	1	0	0	0	0	2	0	2	4	13
	利用者数(人)	0	242	148	0	0	0	0	62	0	6	730	1,188
その他	利用団体数(団体)	0	0	0	0	0	0	0	10	0	2	1	13
	利用者数(人)	0	0	0	0	0	0	0	1,082	0	10	31	1,123
合計	利用団体数(団体)	41	92	15	9	10	1	4	192	28	95	144	631
	利用者数(人)	2,007	9,477	2,433	2,665	407	91	410	11,304	1,054	495	6,683	37,026

・当所主催の教育事業を除いています。

・「学校」が、授業外(勉強合宿・部活・クラスレクリエーション)で利用した場合は、「青少年活動団体」に区分しています。

・各団体が「下見・事前打合せ」で利用した場合を除いています。

(6)長崎県内市町ごとの利用状況

市町名	利用者数		利用団体数	
	数(人)	割合(%)	数(団体)	割合(%)
諫早市	14,661	50.6	289	54.7
長崎市	5,714	19.7	109	20.6
大村市	3,702	12.8	54	10.2
雲仙市	191	0.6	9	1.7
島原市	533	1.8	9	1.7
南島原市	220	0.8	4	0.8
佐世保市	397	1.4	11	2.1
時津町	1,536	5.3	14	2.7
長与町	1,360	4.7	15	2.8
その他	660	2.3	14	2.7
合計	###	100	528	100

・当所主催の教育事業を除いています。

・各団体が「下見・事前打合せ」で利用した場合を除いています。

図9 長崎県内市町ごとの利用者数の割合

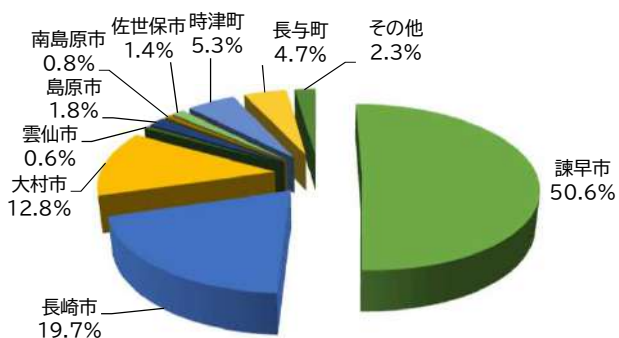
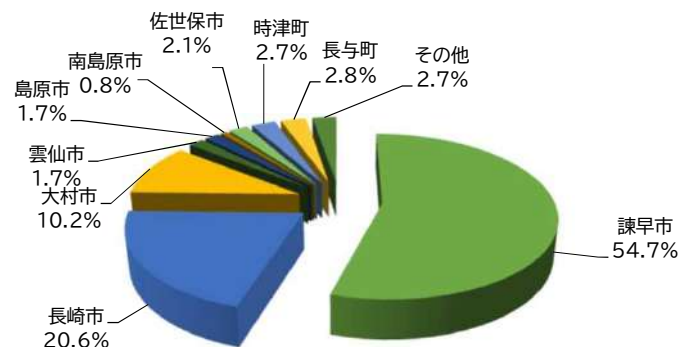


図10 長崎県内市町ごとの利用団体数の割合



(7)長崎県内市町ごとの団体種別利用実績

市名	団体種別	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援	大学・短大	その他の学校	青少年活動団	官公庁企業	家族	その他	合計
		数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	数	
諫早市	利用団体数(団体)	15	28	10	2	1		2	77	6	49	99	289
	利用者数(人)	503	3,005	1,214	614	12		120	4,344	297	206	4,346	14,661
長崎市	利用団体数(団体)	15	4	2	2	1	1	1	38	8	19	18	109
	利用者数(人)	1,075	343	242	467	24	91	212	2,061	641	112	446	5,714
大村市	利用団体数(団体)	4	11		1	4		1	13	1	11	8	54
	利用者数(人)	169	1,749		167	150		78	630	55	91	613	3,702
雲仙市	利用団体数(団体)	3	1						2		1	2	9
	利用者数(人)	73	26						49		2	41	191
島原市	利用団体数(団体)	1	5			2			1				9
	利用者数(人)	38	351			121			23				533
南島原市	利用団体数(団体)		1						2			1	4
	利用者数(人)		96						90			34	220
佐世保市	利用団体数(団体)								7		2	2	11
	利用者数(人)								361		16	20	397
時津町	利用団体数(団体)	1	4	1	1	2			1		2	2	14
	利用者数(人)	44	622	615	99	100			18		14	24	1,536
長与町	利用団体数(団体)	1	5		1				1	1	3	3	15
	利用者数(人)	50	977		2				23	15	13	280	1,360
その他	利用団体数(団体)	1	2						11				14
	利用者数(人)	55	161						444				660
合計	利用団体数(団体)	41	61	13	7	10	1	4	153	16	87	135	528
	利用者数(人)	2,007	7,330	2,071	1,349	407	91	410	8,043	1,008	454	5,804	28,974

・当所主催の教育事業を除いています。

・「学校」が、授業外(勉強合宿・部活・クラスレクリエーション)で利用した場合は、「青少年活動団体」に区分しています。

・各団体が「下見・事前打合せ」で利用した場合を除いています。

(8) 宿泊日数別利用状況

宿泊日数	利用者数		利用団体数	
	数(人)	割合(%)	数(団体)	割合(%)
日帰り	10,169	46.2	631	65.6
1泊2日	9,097	41.3	267	27.7
2泊3日	1,928	8.8	48	5.0
3泊4日	449	2.0	10	1.0
4泊5日	280	1.3	4	0.4
5泊以上	94	0.4	3	0.3
合計	22,017	100	963	100

図11 宿泊日数別利用者数の割合

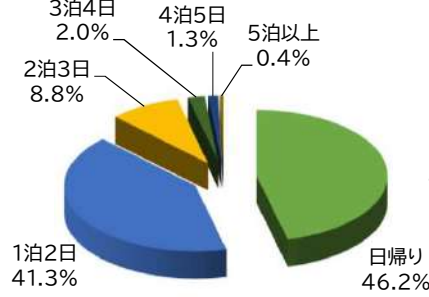
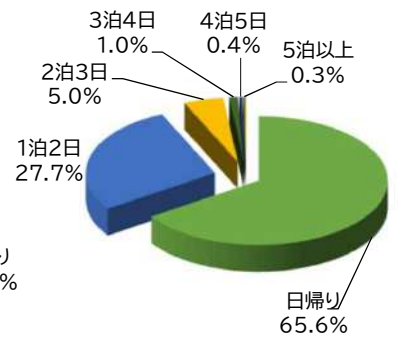


図12 宿泊日数別団体数の割合



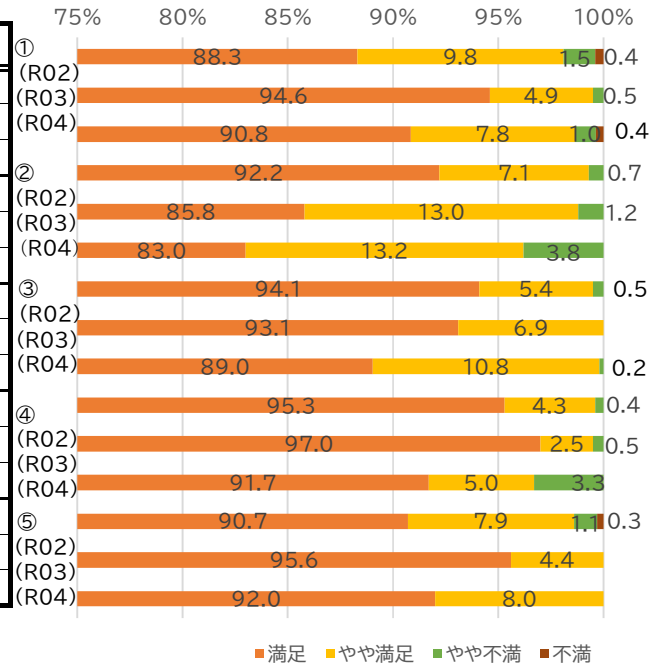
・利用者数は、実利用者数を用いて算出しています。
 ・当所主催の教育事業を除いています。

(9) 利用者アンケート

		満足	やや満足	やや不満	不満
①事前の情報提供に関する満足度	R02	88.3	9.8	1.5	0.4
	R03	94.6	4.9	0.5	0.0
	R04	90.8	7.8	1.0	0.4
	(R02)	94.6	4.9	0.5	0.0
②職員等の教育的支援に関する満足度	R02	92.2	7.1	0.7	0.0
	R03	85.8	13.0	1.2	0.0
	R04	83.0	13.2	3.8	0.0
	(R02)	92.2	7.1	0.7	0.0
③活動プログラムに関する満足度	R02	94.1	5.4	0.5	0.0
	R03	93.1	6.9	0.0	0.0
	R04	89.0	10.8	0.2	0.0
	(R02)	94.1	5.4	0.5	0.0
④職員の対応に関する満足度	R02	95.3	4.3	0.4	0.0
	R03	97.0	2.5	0.5	0.0
	R04	91.7	5.0	3.3	0.0
	(R02)	95.3	4.3	0.4	0.0
⑤施設を利用したの総合的な満足度	R02	90.7	7.9	1.1	0.3
	R03	95.6	4.4	0.0	0.0
	R04	92.0	8.0	0.0	0.0
	(R02)	90.7	7.9	1.1	0.3

図13 利用者アンケート経年比較

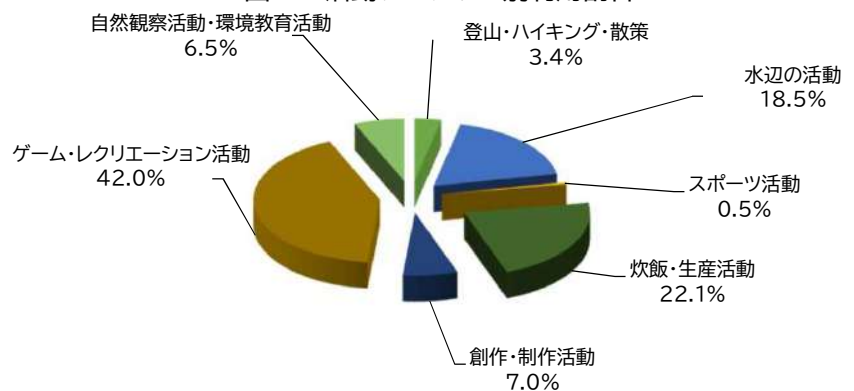
(%)



(10) 活動プログラム別利用状況

活動プログラム	利用件数	割合(%)
登山・ハイキング・散策	27	3.4
水辺の活動	145	18.5
スポーツ活動	4	0.5
炊飯・生産活動	173	22.1
創作・制作活動	55	7.0
ゲーム・レクリエーション活動	329	42.0
自然観察活動・環境教育活動	51	6.5
合計	784	100

図14 活動プログラム別利用割合



(11)開所からの利用状況

和暦	西暦	宿 泊		日 帰		総 計		
		団体数	利用者数	団体数	利用者数	団体数	利用者数	
昭和	53	1978	163	22,453	-	-	163	22,453
	54	1979	428	86,601	-	-	428	86,601
	55	1980	489	117,570	-	-	489	117,570
	56	1981	466	138,144	-	-	466	138,144
	57	1982	428	142,494	-	-	428	142,494
	58	1983	460	146,857	-	-	460	146,857
	59	1984	406	151,007	-	-	406	151,007
	60	1985	455	153,593	-	-	455	153,593
	61	1986	465	156,750	-	-	465	156,750
	62	1987	492	157,146	-	-	492	157,146
	63	1988	565	158,195	-	-	565	158,195
平成	元	1989	585	158,789	-	-	585	158,789
	2	1990	579	159,933	-	-	579	159,933
	3	1991	602	160,610	-	-	602	160,610
	4	1992	622	153,276	-	-	622	153,276
	5	1993	603	141,314	-	-	603	141,314
	6	1994	643	127,045	21	1,705	664	128,750
	7	1995	712	124,072	22	1,517	734	125,589
	8	1996	731	124,034	17	1,852	748	125,886
	9	1997	636	113,898	12	645	648	114,543
	10	1998	622	108,750	27	1,110	649	109,860
	11	1999	585	104,592	31	1,706	616	106,298
	12	2000	560	98,888	42	2,228	602	101,116
	13	2001	518	91,016	127	5,245	645	96,261
	14	2002	599	94,632	273	5,996	872	100,628
	15	2003	695	102,799	400	7,381	1,095	110,180
	16	2004	634	97,555	514	8,841	1,148	106,396
	17	2005	714	96,400	571	9,668	1,285	106,068
	18	2006	664	95,838	626	6,854	1,290	102,692
	19	2007	619	93,318	570	7,352	1,189	100,670
	20	2008	711	93,427	702	12,395	1,413	105,822
	21	2009	731	93,102	614	15,549	1,345	108,651
	22	2010	650	96,890	580	10,097	1,230	106,987
	23	2011	653	92,634	613	17,861	1,266	110,495
	24	2012	632	91,453	549	18,833	1,181	110,286
	25	2013	708	92,226	594	16,051	1,302	108,277
	26	2014	737	94,337	667	21,258	1,404	115,595
	27	2015	748	96,931	808	28,081	1,556	125,012
	28	2016	856	90,892	739	34,184	1,595	125,076
	29	2017	780	86,275	836	31,516	1,616	117,791
	30	2018	785	78,357	813	32,712	1,598	111,069
令和	元	2019	712	68,476	700	29,171	1,412	97,647
	2	2020	203	13,864	502	10,161	705	24,025
	3	2021	246	18,291	632	10,684	878	28,975
	4	2022	345	28,020	646	11,375	991	39,395
	計		26,237	4,812,744	13,248	362,028	39,485	5,174,772

※昭和53年度～平成5年度の利用者数は現行とカウントの仕方が異なっていたために、現行の方法に合わせて計算しています。

(12) 傷病発生状況

①内科系

	発熱	頭痛	吐き気	嘔吐	腹痛	倦怠感 (だるさ)	その他	合計
オリエンテーリング・ウォークラリー	1	4		1	1		1	8
アドベンチャープログラム・イニシアティブゲーム		1			1			2
スポーツ活動		1		1		2	1	5
沢登り・沢遊び	2		1					3
野外炊事	1							1
クラフト等	2		1					3
研修・学習活動		1	1				1	3
自由時間	4	1	5		1	1		12
食事			1	2				3
入浴		1						1
就寝時間	2		4	4	1			11
移動中	2	3	1					6
合計	14	12	14	8	4	3	3	58

図15 状況別傷病発生率(内科系)

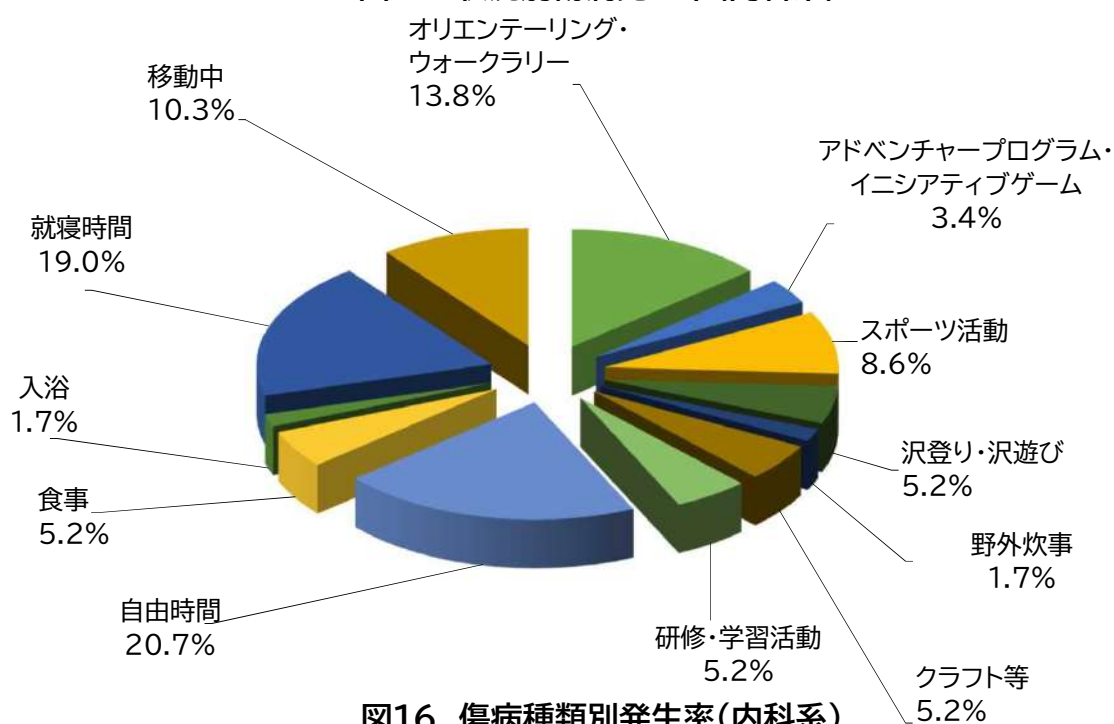
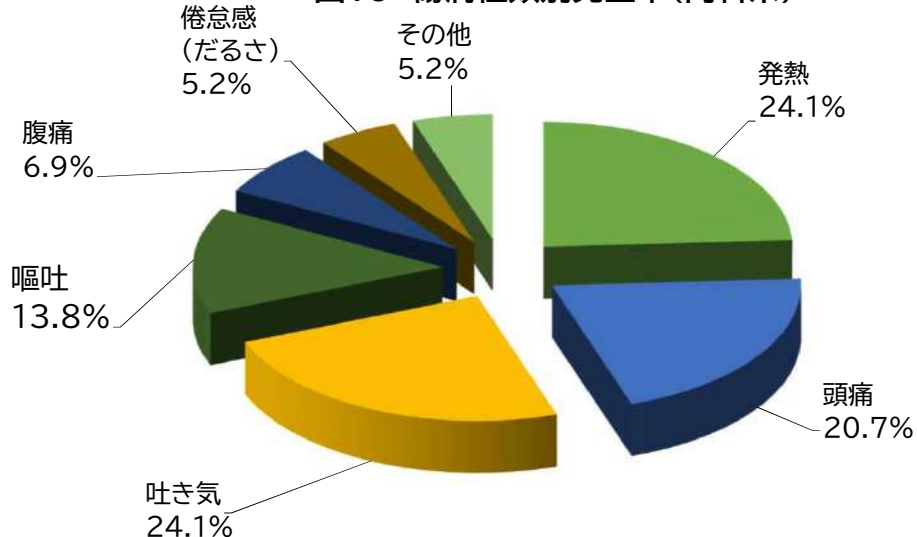


図16 傷病種類別発生率(内科系)



②外科系

	きり傷	すり傷	やけど	打撲	ねんざ	骨折	虫刺され	生理痛	その他	合計
登山・ハイキング	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
オリエンテーリング・ウォークラリー	0	2	0	1	6	0	1	0	3	13
アドベンチャープログラム・イニシアティブゲーム	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
スポーツ活動	0	0	0	2	1	0	0	0	0	3
沢登り・沢遊び	1	1	0	2	0	2	0	0	1	7
野外炊事	1	1	4	0	0	0	0	0	0	6
キャンプ(テント設営等)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自由時間	1	1	0	0	0	0	0	0	2	4
その他	2	2	2	2	1	0	0	0	1	10
合計	5	7	6	7	8	3	1	0	9	46

図17 状況別傷病発生率(外科系)

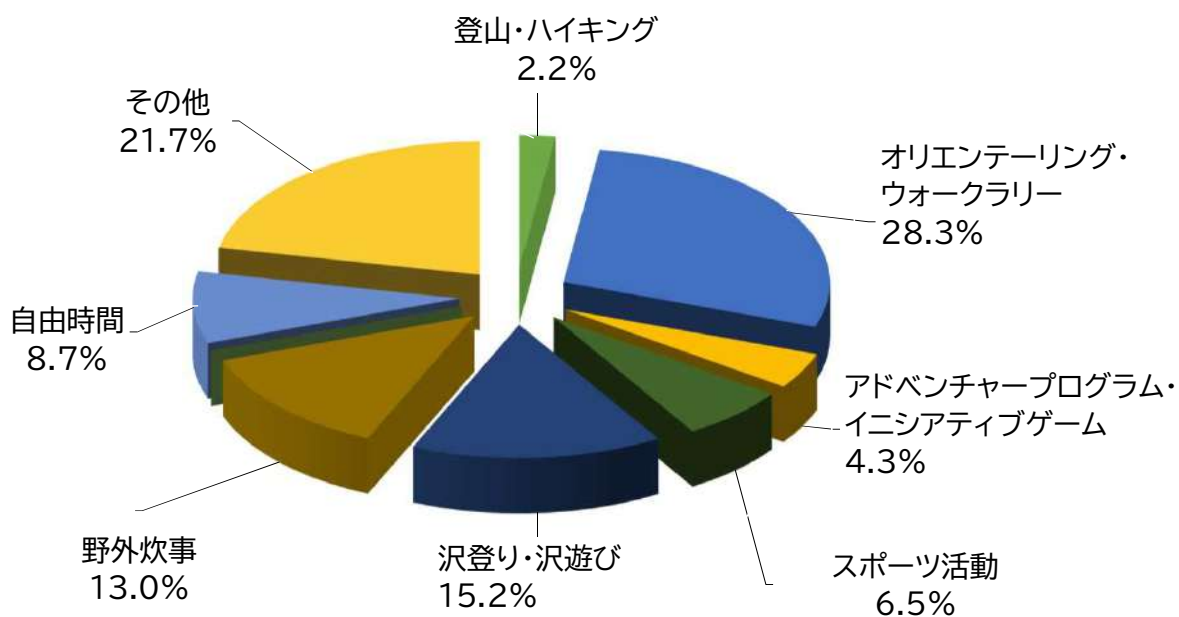
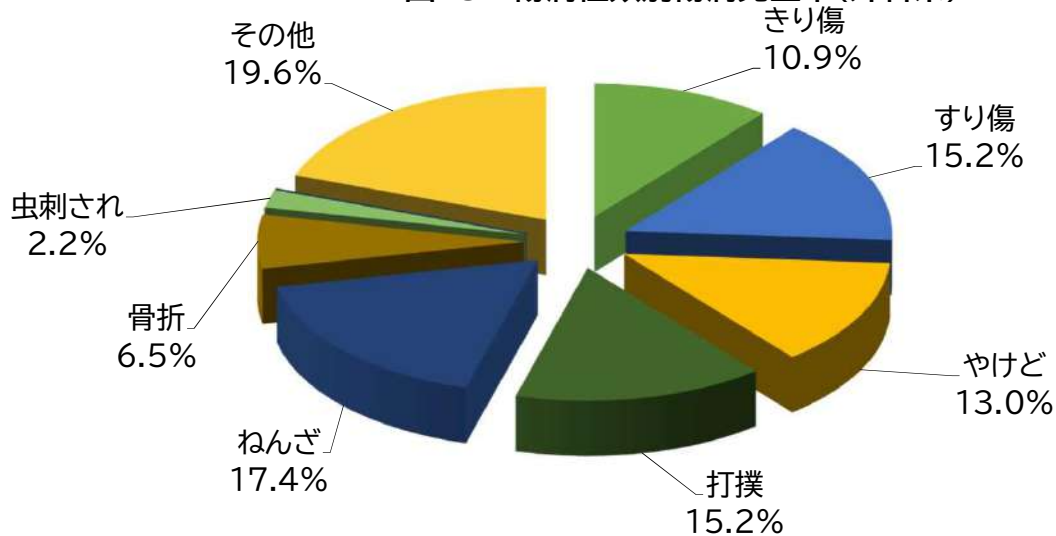


図18 傷病種類別傷病発生率(外科系)



管理運営状況

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、当所の収入が大幅に減少した令和3年度から幾分回復したものの、コロナ前と比較すると厳しい財務状況であり、施設設備等の修繕を行うための予算(管理運営経費)は依然として大幅に減少したままとなりました。

このため、大規模な修繕工事や設備整備を実施することはできませんでしたが、光熱水料や通信費の節約に努め、職員自らが整備、修繕作業等を行うことで経費節減を図るなど、工夫を凝らしながら、利用者の安全安心を第一に考え整備を進めています。

(1)利用者への安全安心・サービスの向上

①駐車場、周回道路の整備

車の往来等で見えにくくなっていた駐車場の枠線や道路標示、停止線を職員が協力して、新しく塗り替えました。明るく判りやすくなったことで、来所される方がスムーズに通行、駐車ができるようになりました。

また、周回道路と浴室棟通路との段差には、コンクリートで緩やかなスロープを造り、車椅子やベビーカー等でも通行できるよう整備しました。



②駐車場案内板製作、設置

初めて来所される方でも駐車場への経路が判るよう、周回路に職員手づくりの木製案内板を設置しました。材料には間伐材や廃材を利用し、利用者の方が迷うことが無いよう、また一目で確認できるように、文字の大きさや色、形や配置等を思案しながら、作成しました。

完成した案内板は、見通しの良い安全な場所に設置しました。



③キャンプ村枯松伐採

キャンプ村は、元は松林だったところを整備してできたキャンプ場です。近年、松くい虫の食害の影響により、立ち枯れする松の木が目立ってきました。

枯れた松の木の下には、道路や高床式のテント台が並びテントサイトがあるため、枝が折れ落下する恐れがあり、危険な状態でしたが、専門の業者へ伐採を依頼し、重機を使用して、枯れた松の木を十数本撤去しました。

これにより、キャンプ村での活動がより安全に行えるようになりました。



(2)老朽化、経年劣化への対応

①あそびの森木製遊具の撤去

あそびの森のフィールドアスレチックは利用者の中でも、子供達に大人気のプログラムです。

しかしながら、木製のため劣化の進行が早く、高額な維持費用がかかることから、あそびの森内の「丸太橋」と「丸太の砦」の木製遊具を撤去しました。

撤去した丸太は、施設整備の資材として、有効活用する予定です。



②機器の更新

レストラン厨房内の製氷機が経年により使用不能となりました。

氷は厨房において、食材の保存や冷却に利用されるだけでなく、夏期に利用される団体からのニーズも高くなることから必要であるため、新しく省電力タイプのものに更新しました。



(3)今後の取組について

本所は開所から40年以上経過し、建物や設備にも経年劣化が目立つようになり、建物の修繕や設備備品の修理も増えてきています。そのような中で、利用者の安全安心安全を担保し、本所において良質な活動や生活が提供できるよう、またそのような活動や生活に支障が生じないように、建物や設備の維持管理に必要な管理運営経費を確保することが重要となります。そのためにも今後は、収入の確保や経費削減に努めていく必要があります。

①予算確保に向けた取り組み

- ・利用者(収入)増を図る取組
- ・民間企業との連携事業強化
- ・助成金、補助金など積極的な活用
- ・寄付金の呼びかけ
- ・「クラウドファンディング」や「ネーミングライツ」による資金調達 など

②経費削減への取り組み

- ・契約方法、契約先の見直しや在庫管理の徹底
- ・節電、節水など省エネルギー化
- ・自施設で修理改修できるものは自分たちで行う
- ・費用対効果や安全を優先した施設維持管理
- ・「所報」や「利用の手引き」、配布資料のデジタル化 など

施設業務運営委員会

(1)委員名簿

(令和5年3月現在)

	氏名	職名
1	○☆池田 尚	諫早市こども福祉部子育て支援課すくすく広場所長
2	◎小原 達朗	長崎大学名誉教授
3	於保 さおり	佐賀県県民環境部まなび課企画・読書環境担当係長
4	佐藤 栄一	福岡県教育庁教育振興部社会教育課主幹社会教育主事
5	下釜 智	長崎新聞社諫早支局支局長
6	□野口 美砂子	NPO法人インフィニティー理事長
7	栢山 ゆずる	長崎県教育庁義務教育課(併任)こども未来課 幼児教育・保育支援班指導主事
8	◇平山 仁	長崎県レクリエーション協会専務理事
9	宮田 龍郎	諫早市子ども会育成連合会専門指導員会長
10	森 秀幸	諫早市立湯江小学校校長
11	諸岡 昌史	諫早市教育委員会生涯学習課課長
12	山口 和也	諫早市PTA連合会副会長
13	山崎 由美	長崎県教育庁生涯学習課課長

◎委員長 ○副委員長 □[SDGs・広報]部会長 ☆[スポーツ]部会長 ◇[防災]部会長

(2)開催状況

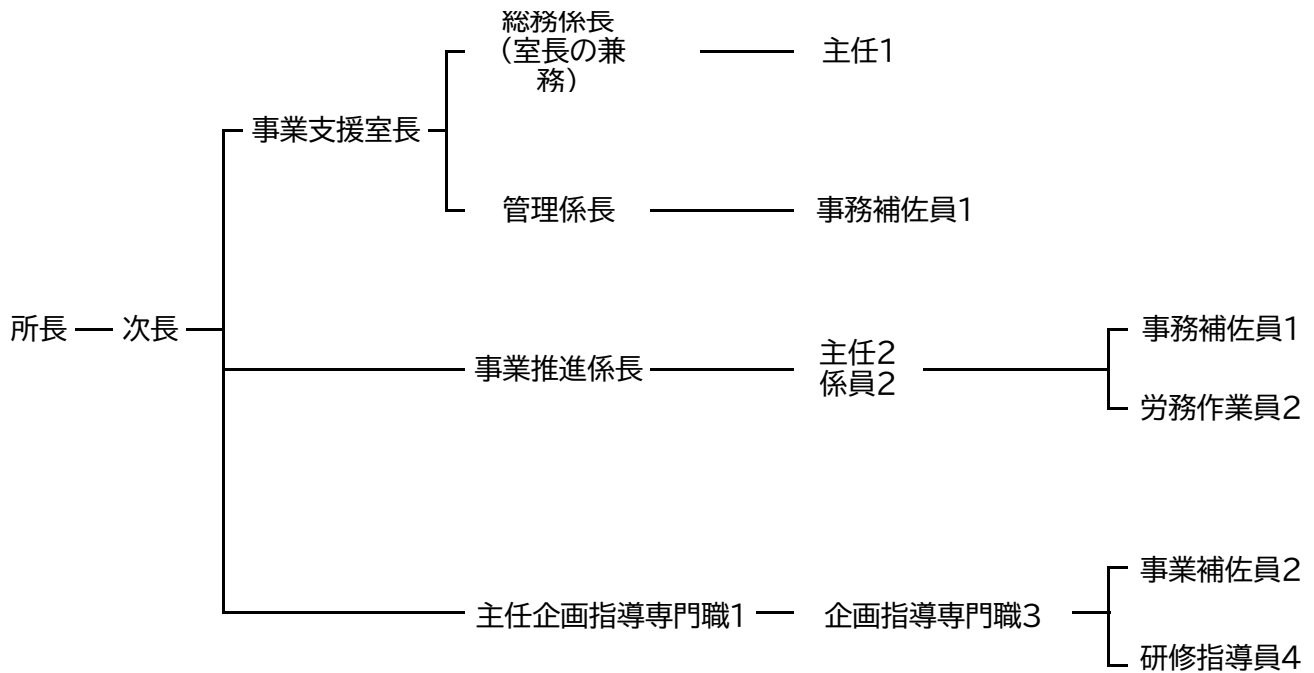
令和4年度の施設業務運営委員会実施状況は下表のとおりです。

	期日(会議形式)	議題等
第1回	令和4年9月12日 (書面会議)	(1)令和3年度の活動報告 (2)令和4年度の経営方針、事業計画等 (3)専門部会について
第1回専門部会 (グループ代表者会議)	令和4年9月26日 (右記の3グループに分かれて今後の活動方針等について検討した)	(1)[SDGs・広報] (2)[スポーツ] (3)[防災]
第2回	令和5年2月22日 (WEB会議併設の対面)	(1)専門部会報告 (2)令和4年度事業・連携等報告 (3)令和5年度機構方向性・計画等報告

組織図・職員名簿

(1)組織図

(令和5年3月現在)



所長1	次長1	室長1	係長2	主任専門職1	専門職3	主任3・係員2	非常勤職員10	合計24
-----	-----	-----	-----	--------	------	---------	---------	------

(2)職員名簿

職名	氏名
所長	蓮見 直子
次長	後藤 慶太

職名	氏名
事業支援室長(兼)総務係長	田崎 雅徳
総務係主任・係員	(主任)吉田 誠
管理係長	上戸 正仁
事務補佐員	川久保 由美子

職名	氏名	
事業推進係長	東島 憲之	
事業推進係主任	田村 匠平	東 宏子
事業推進係員	貞方 貴衣	高山 雄也
事務補佐員	中島 康子	
労務作業員	辻 正則	浅井 勝也

職名	氏名			
主任企画指導専門職	小野 栄策			
企画指導専門職	葛島 隆文	西田 尚由	寺中 拓也	
事業補佐員	稲田 俊彦	松尾 天仁		
研修指導員	池田 尚	岡部 一樹	吉原 裕介	辰野 光亮